

茶筵儀別巻十一

ヲ多9
635
10 止



門ヲ
藏 635
卷 10 止

茶筵儀則卷之十

番請方

- 一 柱の大きき三寸半寸分より奥代と半寸より多
- 一 板浦三寸より多三寸より七寸より板の上場迄

備上

- 一 三寸以内法部人等横内法部人
- 一 戸先より立見付八分斗 中の方より立より九分
- 一 下の方より立見付八分斗中より立より九分
- 一 戸鹿のより立見付八分斗中より立より九分



一 宙のくさる者

一 上のをきく幅をすかたをきくもの

一 杉のせりのきくし中をきくもの

一 下のをきく幅をすかたをきくもの

一 下のをきく幅をすかたをきくもの

一 下のをきく幅をすかたをきくもの

一 下のをきく幅をすかたをきくもの

一 上のをきく幅をすかたをきくもの

一 下のをきく幅をすかたをきくもの

一 戸をきく見分をきくもの

一 下のをきく幅をすかたをきくもの

一 目板をきく六分半の針指をきくもの

一 下の板をきくすかたをきくもの

一 すりきんのをきく見分をきくもの

一 板のをきく二条をきくもの

一 下のをきく幅をすかたをきくもの

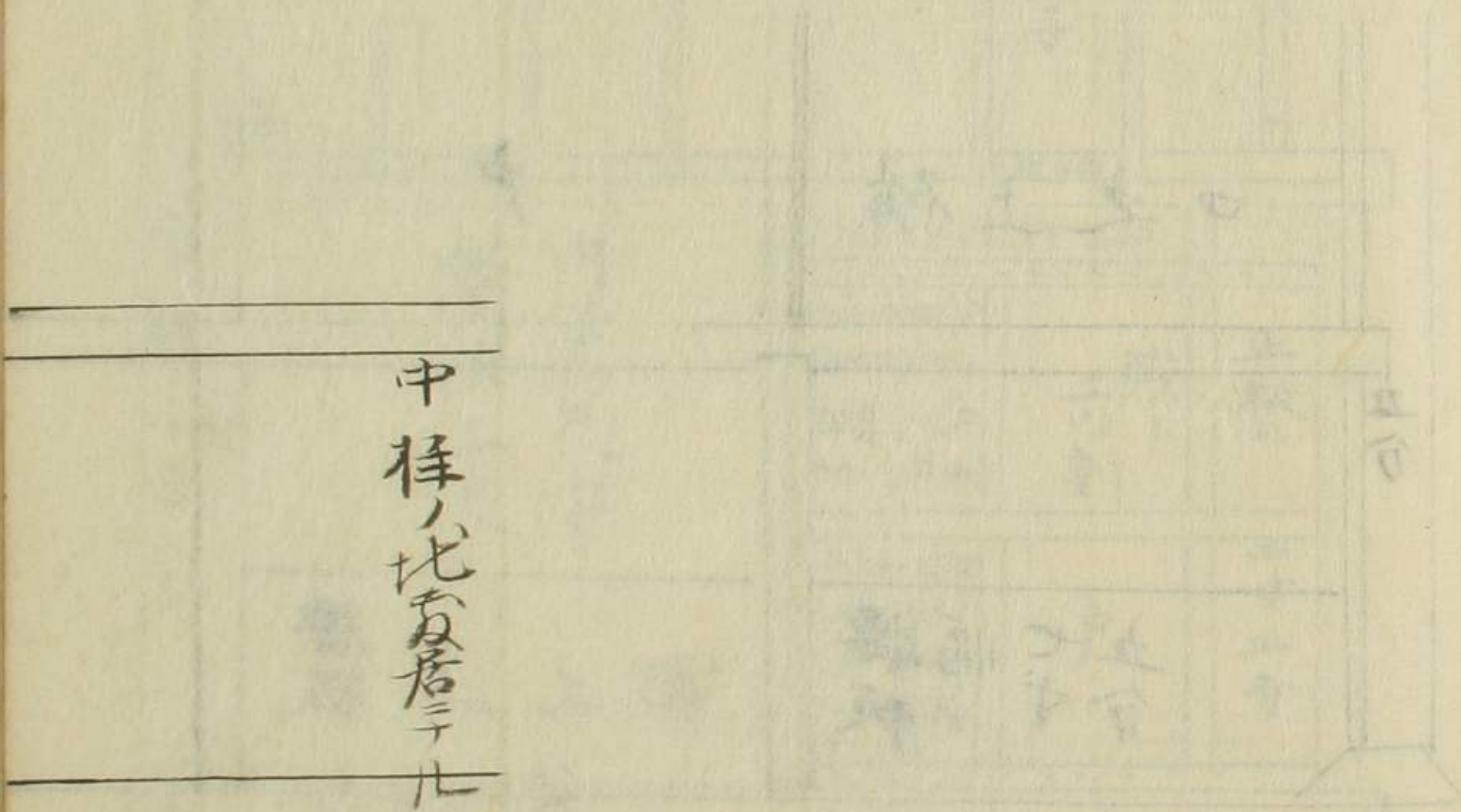
一 下のをきく幅をすかたをきくもの

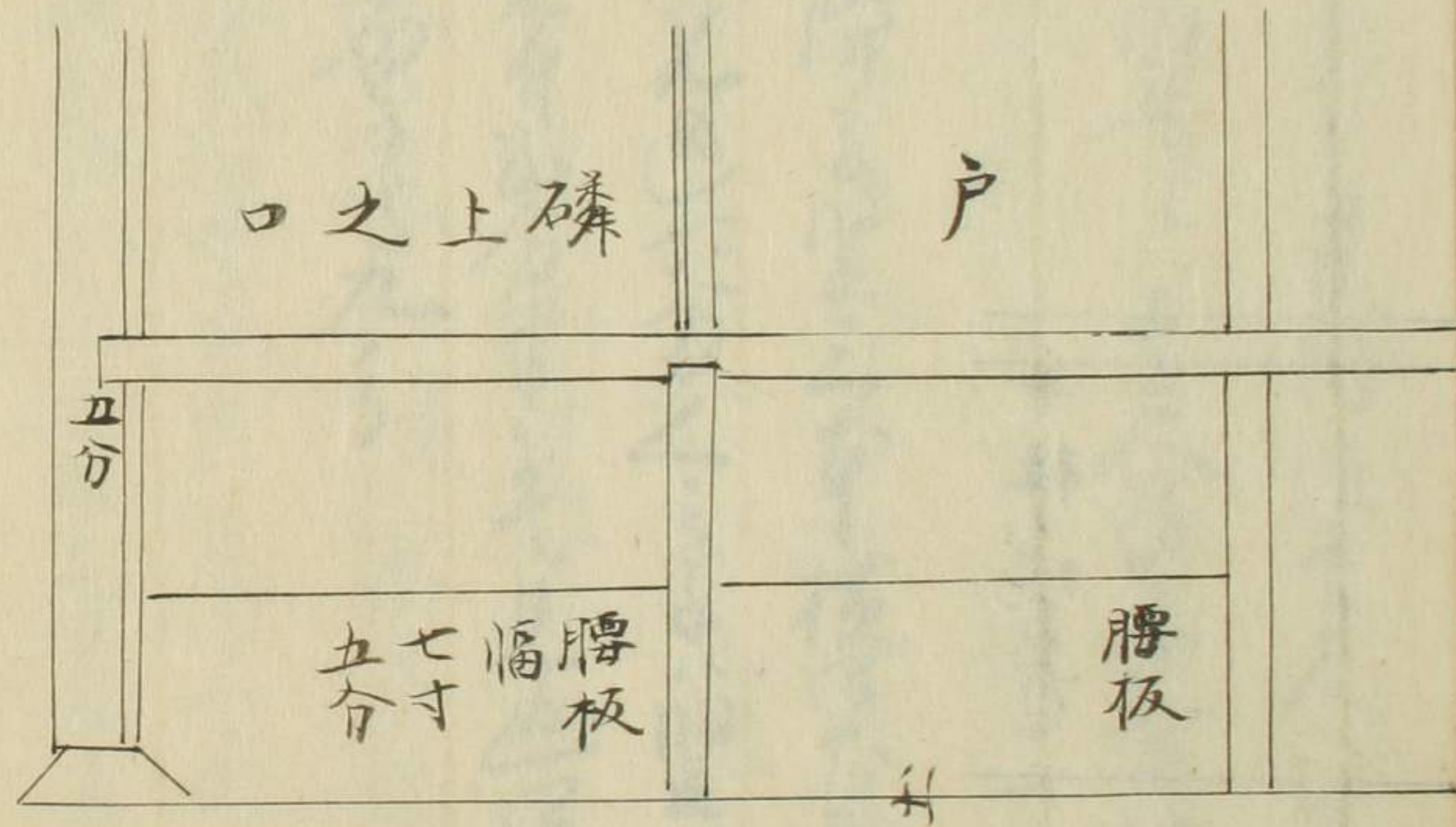
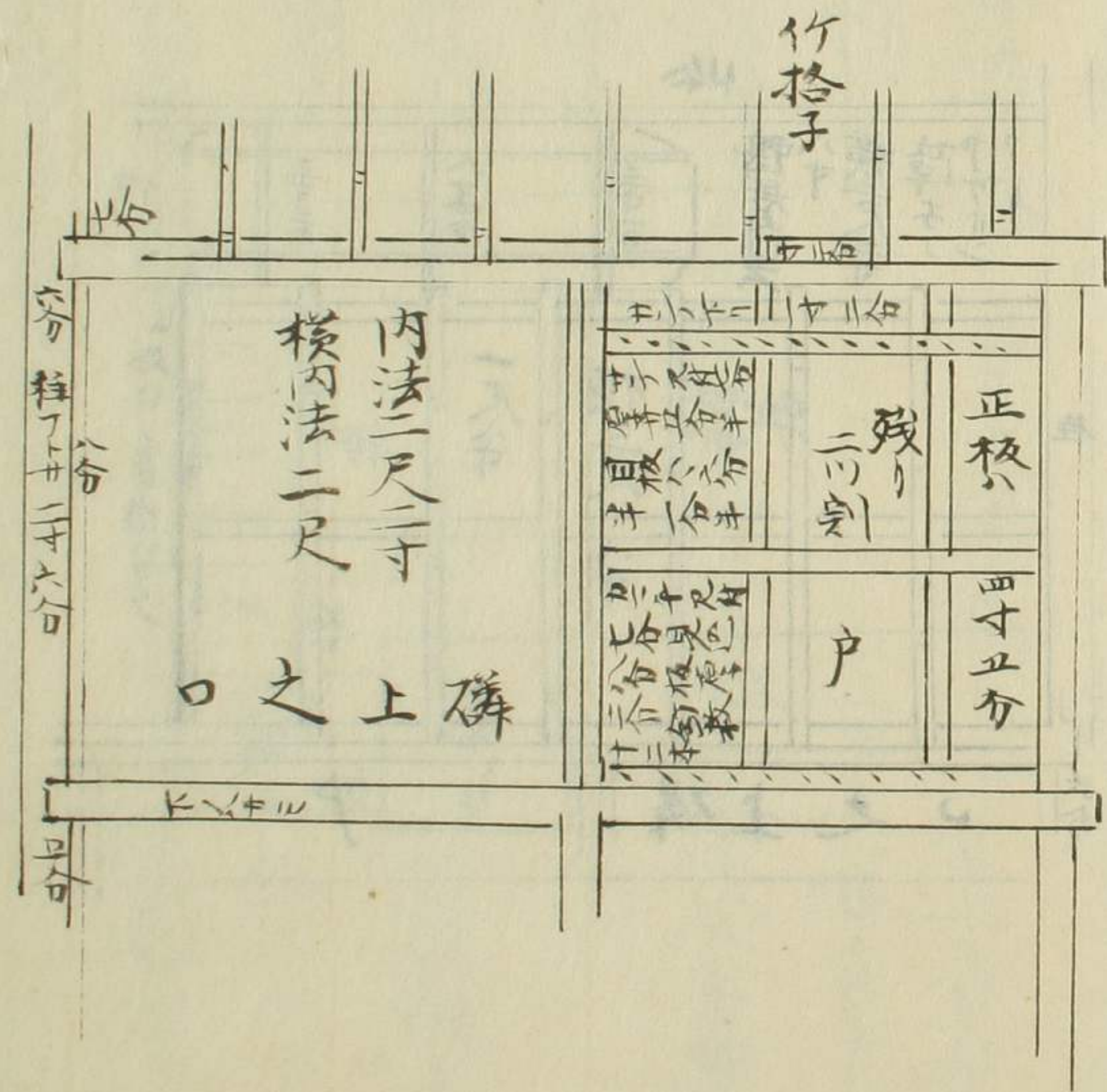
一 圓板をきく七寸をきくもの

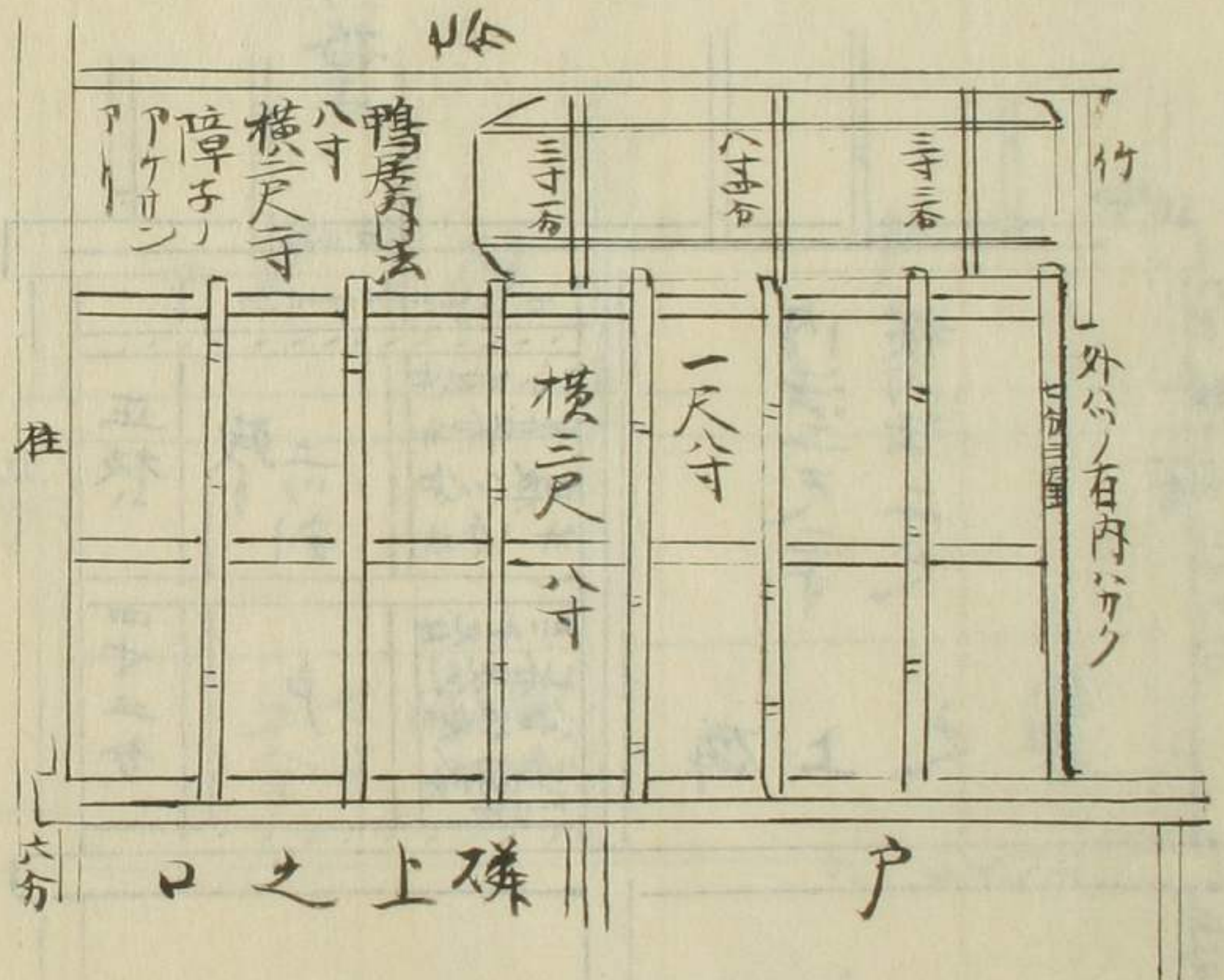
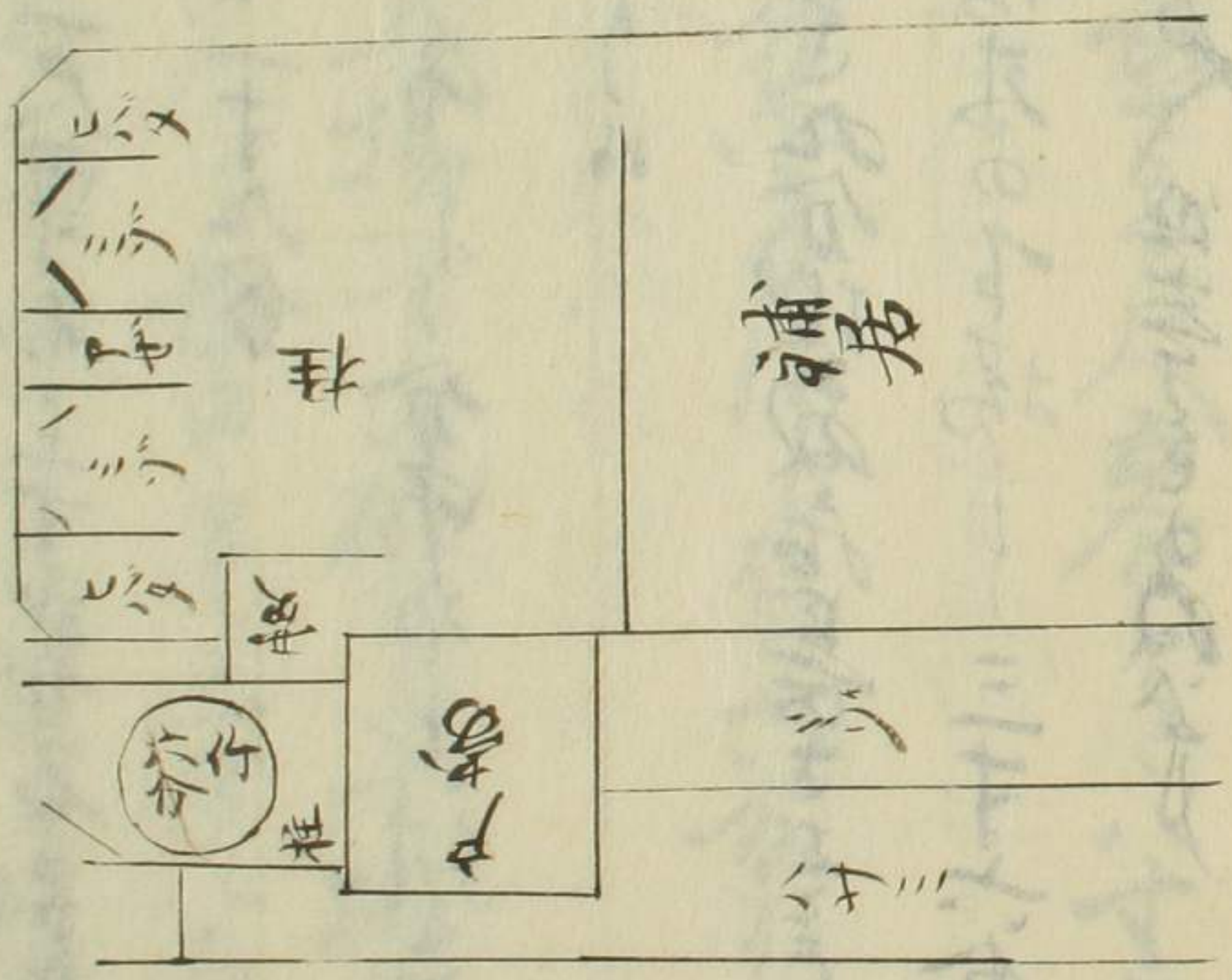
一 四角井の... 二 角井法を三人守横力に
 三人守織物者... 三人守六分横幅三人
 守守守
 一 巾敷の上中障子... 横幅六分障子...
 一 足付... 巾敷... 横幅三
 一 巾敷... 巾敷... 巾敷...
 一 浦居... 巾敷...

一 巾敷... 巾敷... 巾敷...

中様七五居テル







一 大目の内中柱のふよき二寸九分

横本三寸五分内柱二尺四寸二寸五分石三寸九分半

一 下の地敷居を、一寸九分

一 横本を、中柱のふよき一分半より二寸五分の海一

大目の内中柱のふよき

一 上の海一、角のふよき九分比、地敷居長三寸五分

一 袋敷折打横本の下場、三寸六分より一

内外の角より、地敷居のふよき

二種補

一 上の横長を、三寸五分より、角のふよき五分

三寸五分下の横長を、三寸五分より、角のふよき五分

五分三寸五分

一 内り本太さ六分、角のふよき五分より、角のふよき五分

角のふよき五分

一 三寸五分横本の上場、下の横本を、角のふよき五分

三寸五分横本のうち、角のふよき三寸八分、角のふよき五分

三寸八分より、角のふよき五分、角のふよき五分

三寸八分より、角のふよき五分、角のふよき五分

本舞のりひき

一 大目の長と目尻七寸五分大の共又七寸五分
寸五分のひき

一 同舞踊しう刺のこまは八寸五分大のこま
二寸五分の位巾着あり

一 腰は横月たて八寸五分大のこま二寸五分のこま
八寸五分の幅右のこま二寸幅二寸五分大の幅
こまのこまのこまのこま

一 川舟はまのこまのこまのこまのこまのこまのこま
こまのこまのこまのこまのこまのこまのこま

一 一尺のこまのこまのこまのこまのこまのこま
こまのこまのこまのこまのこまのこまのこま

一 鴨居の向まは九寸五分大の同舞鴨居の向
まの向まの向まの向まの向まの向まの向ま

一 一尺のこまのこまのこまのこまのこまのこま
こまのこまのこまのこまのこまのこまのこま

一 一尺のこまのこまのこまのこまのこまのこま
こまのこまのこまのこまのこまのこまのこま

床天井録より寸五幅寸分

一かぶろに寸五分内法三寸八寸横幅三寸五分

寸五分の寸五分幅寸八分鴨居を寸五分

板の内法一寸七分五分

鴨居の寸五分の寸五分幅の寸五分板の幅

一寸五分の寸五分の寸五分鴨居の下端の寸

五分の寸五分の寸五分鴨居の寸五分

鴨居の寸五分の寸五分の寸五分

鴨居の寸五分の寸五分の寸五分

寸五分の寸五分の寸五分

鴨居の寸五分の寸五分の寸五分

障子の六幅法より

床の寸法

廻り九寸下
又分は一寸

床の寸法

床の法四尺
横内法二尺一寸

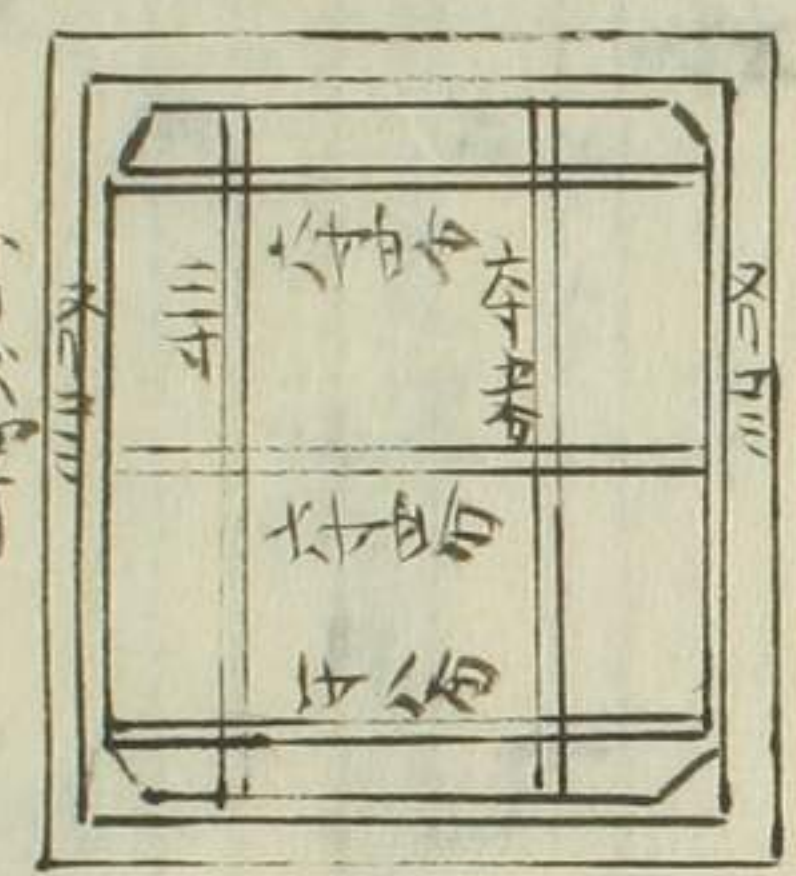
床の寸法

床の寸法

巻生

床の寸法

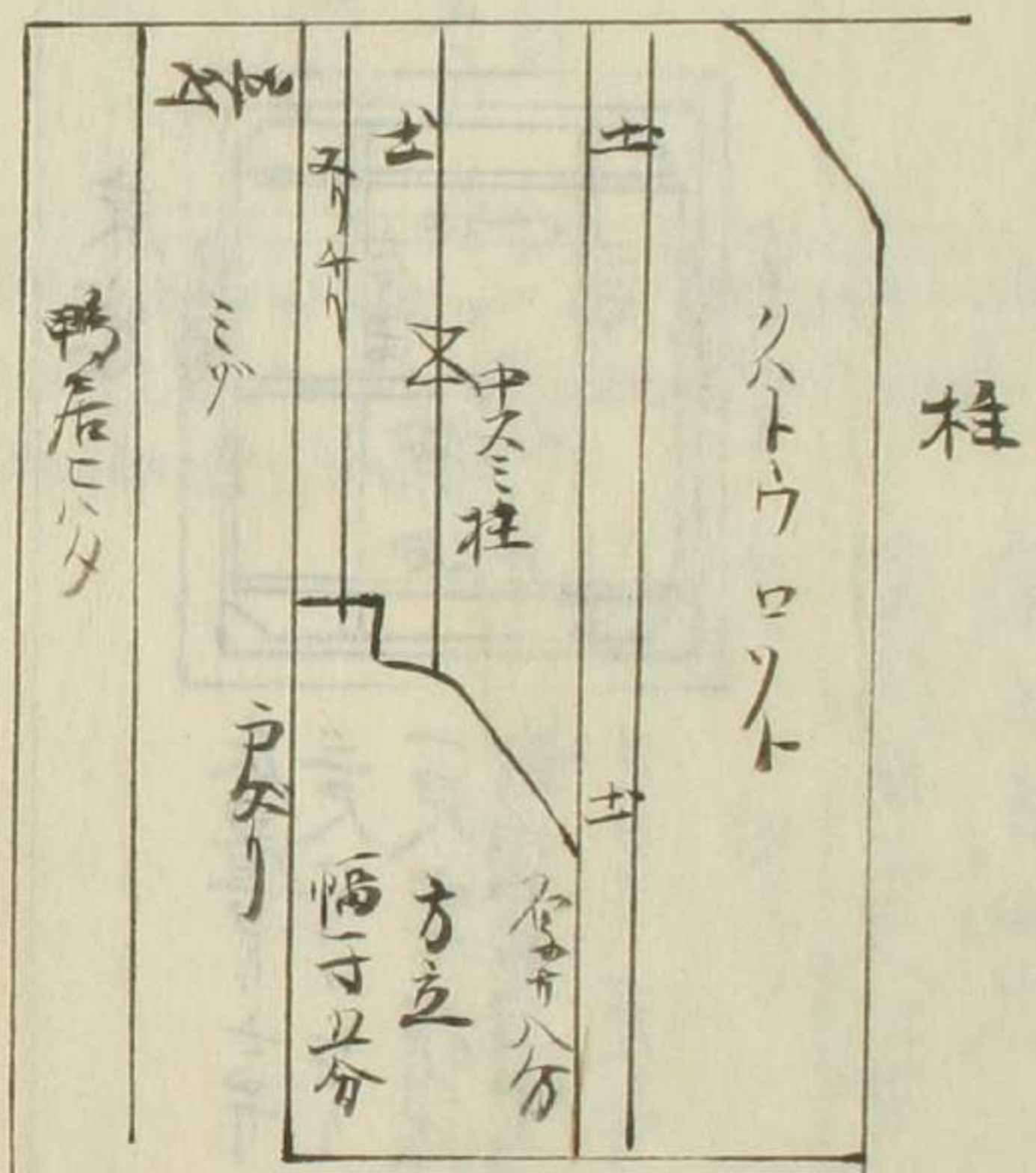
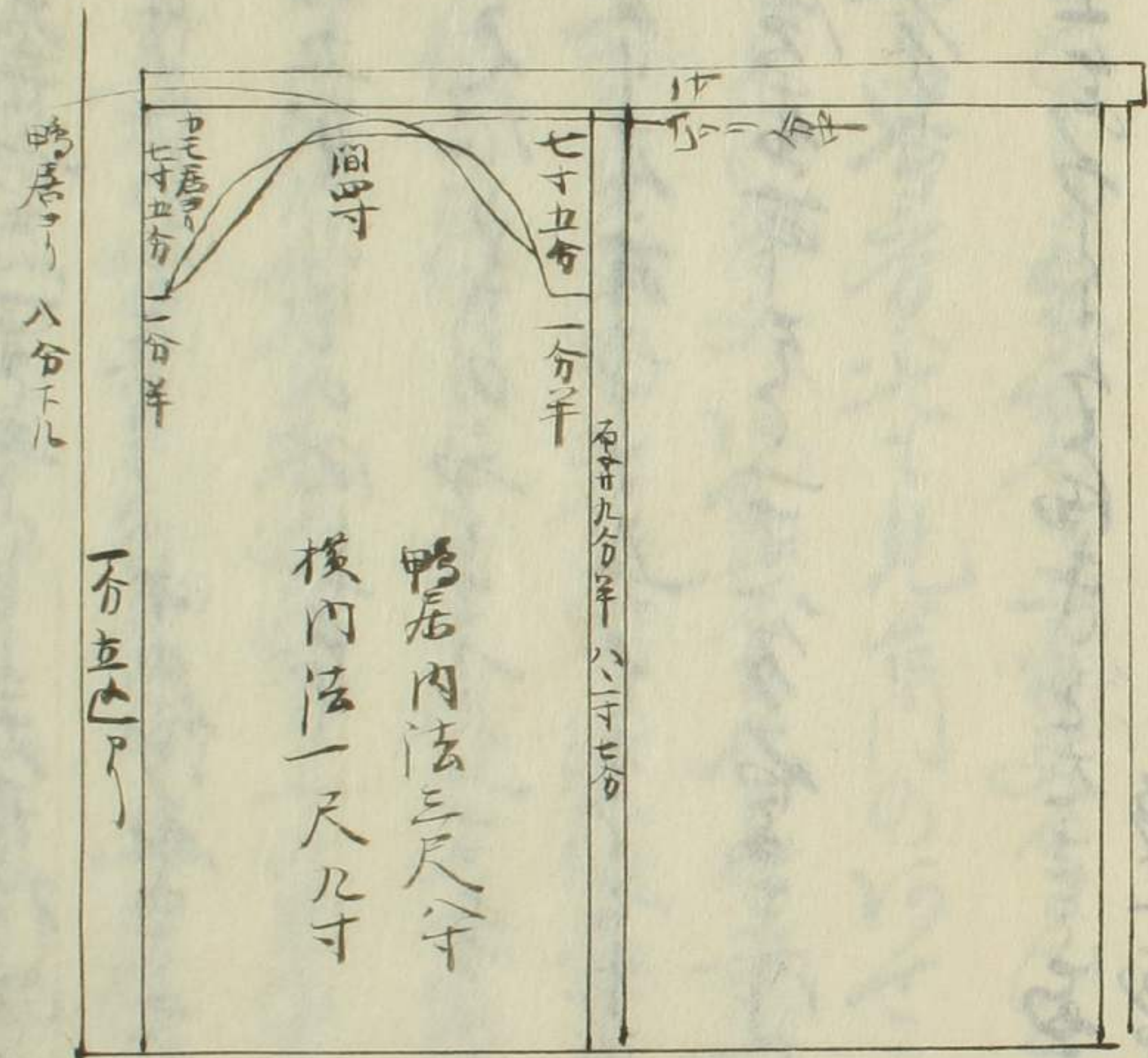
床の寸法



床の寸法
三尺一寸
一尺一寸
前小カ
ソリ一尺一寸

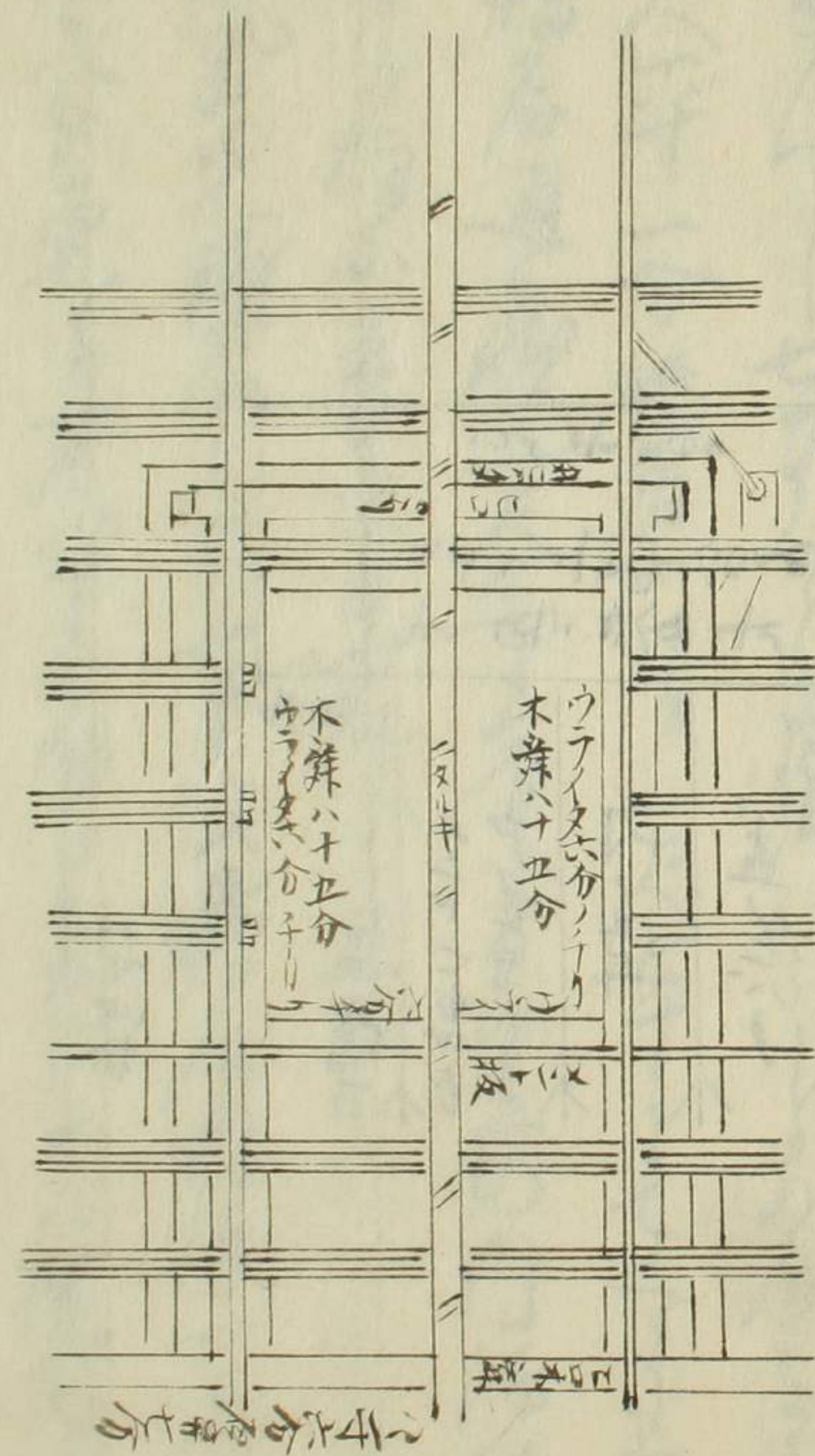
床の寸法

下



同の各の種はしるし幅下とし
 ちのよあとし知のりし西のり
 きのせし一西のりし西のり
 種あしよあし一あしは合のり
 るれしすまの板あしよあし
 少き板のりしあしよあし
 しよあし
 眼の付のりしあしよあし
 ちまのりしあしよあし

ツナ上ホノ棒
 長一尺七寸五分六分

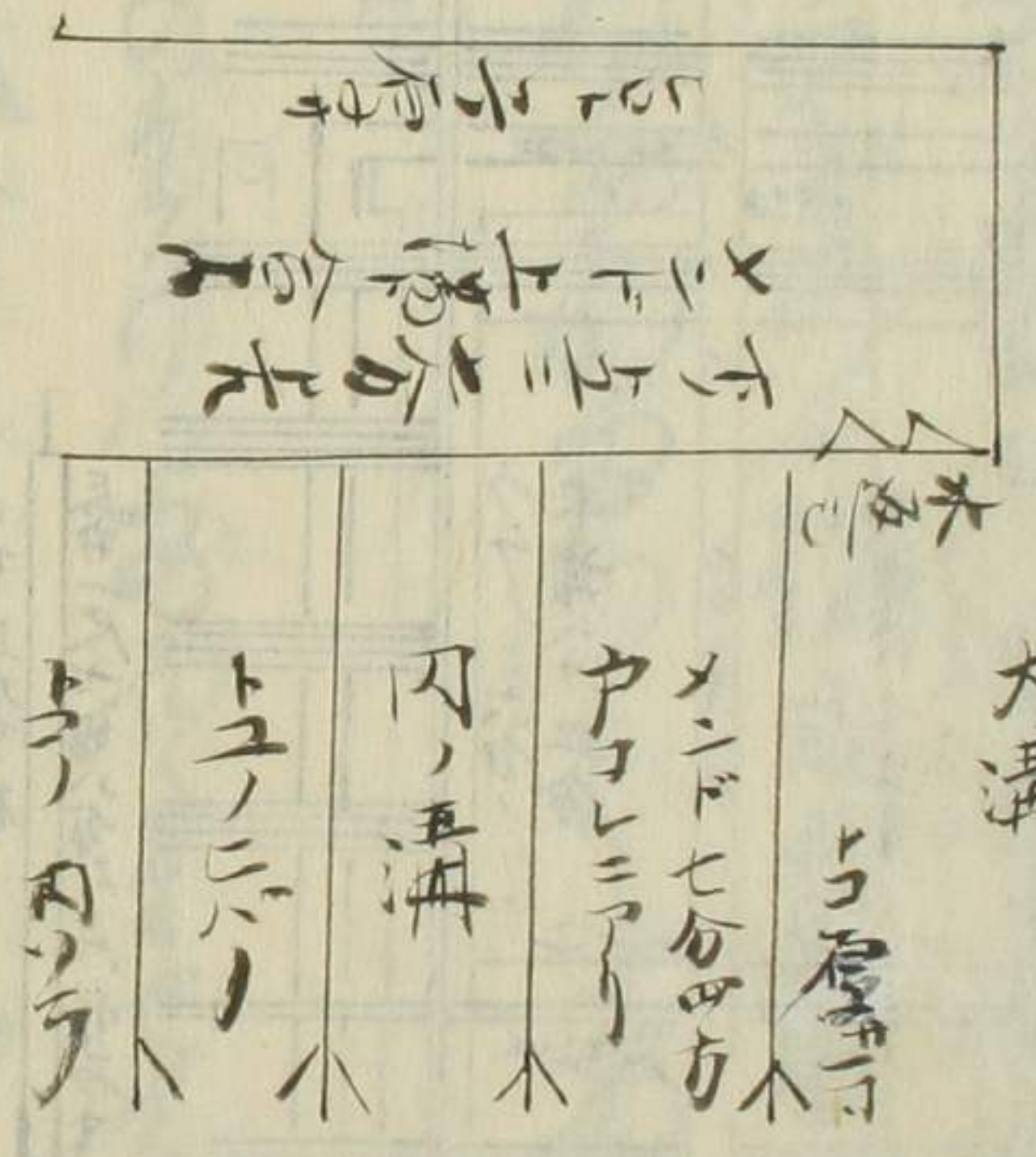


ツナ上ホノ棒
 長一尺七寸五分六分

一才

一寸四分

大溝



織物屋

- 一 一才一七寸一〇分 板折かゝり 敷居のまゝ
- 一 二才一分 鴨居の内法 一尺七寸一〇分 是れは
- 鴨居通の板 二尺三寸五分 方のまゝの 内法 板
- 中より 五寸五分 五寸
- 一 風呂の浦居のまゝ 七寸五分 鴨居の内法 一尺一
- 寸五分 東より 一尺一寸五分 ありと 免打の 横内法
- 一 一尺一寸五分 同 免打の ありと 免打の 横内法
- 一 半六鴨居のまゝ 七寸五分 是れは 中より

瓦の二枚下より四の板より一尺守上下のあ
きと瓦石より一寸五分鴨居より一寸五分を
あしおりの押さうり五通

一 梁の同天井の三きと瓦石より七尺一寸從つて

りきと痛の上端より一寸五分

かけのみの上端より一寸五分

七寸五分と一尺一寸五分

一 尺一寸五分

一 床のあしより一尺一寸五分

きと人ち悔の上端

一 一尺一寸五分鴨居の内法一尺一寸五分

鴨居の寸法より一寸五分

鴨居の寸法より一寸五分

一 上板の寸法より一寸五分

二尺一寸五分

横板の寸法より一寸五分

一尺一寸五分

鴨居の寸法より一寸五分

一 因事申之しるし二三人はあは

一 せうしとほの考らまひははる人少す物名のみ

一 物の上をうへ物名のみをばしす西の井が

一 物名のみをうへ物名のみをばしす西の井が

一 内法一尺のち横二尺八寸五分

一 一本を好す十玉通し二寸五分一尺五分

一 石の上をうへ物名のみをばしす西の井が

一 内二一尺のち

一 東の物名のみ物の上をうへ物名の上をば

一 二尺横を二尺二寸

一 一尺のち一物名のみをうへ物名の上をうへ二寸

一 七角物名の上をうへ

一 物名のみをうへ物名の上をうへ

一 物名の上をうへ物名の上をうへ

一 物名の上をうへ

一 一尺のち一尺五分の上をうへ

一 一尺のち一尺五分の上をうへ

一 一尺のち

一 床とおのり比敷く二三寸高き内にお
りどくしけのちりけりや

一 内床の巾打ち幅くみお下せし長さ大
幅のし

一 枕置のおおの寝本の下をく二三寸高

一 造りおのり書代をくわけの下を
く九分下げし同せるおのり床のたき

一 名をくまかけおのりし板の板く

一 つかり糸のたこのはく二三寸高

一 寝本おのりのまのく入造りく高きおのり床を

比敷く上のおのり二三寸高おのり

二三寸高の糸めねまわし二寸高おのり

一 葉おのりをく二三寸高おのり

上のおのり二三寸高おのり廿九寸高押
さく

一 枕置のし二三寸高

一 造りしおのり

一 おのり二三寸高

一 床の天井七丈三寸二毫あり

一 障子のけり五丈七寸あり

一 二枚障子の五丈二寸あり

但障子のけりと六寸あり

一 通の台二丈八寸板を七寸敷きの中四寸又

一 ありと五寸あり

一 の巻くつまより本年あの中切の年板の年

一 寸二よもをよりより新敷きの年板の

一 法はく七寸六分を二寸あり

一 玄園のつきよりあり常の年切より下の巻を二

一 尺七寸あり常の年切と二尺二寸の法は

一 あり常の年切より二尺二寸の法は

一 常の年切より一尺二寸

一 のけり二尺二寸の法は二尺二寸あり

一 あり二尺二寸の法は二尺二寸あり

一 横を二尺二寸の法は二尺二寸あり

一 あり二尺二寸の法は二尺二寸あり

一 あり二尺二寸の法は二尺二寸あり

一 風上り...
 一 風下り...
 一 風上り...
 一 風下り...
 一 風上り...
 一 風下り...
 一 風上り...
 一 風下り...
 一 風上り...
 一 風下り...

一 旗上り上行...
 一 旗上り下行...
 一 旗上り上行...
 一 旗上り下行...
 一 旗上り上行...
 一 旗上り下行...
 一 旗上り上行...
 一 旗上り下行...
 一 旗上り上行...
 一 旗上り下行...

南の人は守一方のみのだまきまきや
皇一も横甲を名はる南の守りや
横守の方因下より守中にも二平

一火の井かー内法一火守四かろ二火守
守りせー一守り守り守り守り
守り守り守り

一麻あふ下より三火守守り内法一火守守り
守り守り守り守り守り守り
守り守り守り

一火守かー下より一火守守り内法一
火守守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り

織部流

- 一 南郭の下にまきむす杉の上をまき田たき
かけのまきむす杉のまきむす杉のまきむす杉
- 一 大月郭のまきむす杉の上をまき
- 一 かしのまきむす杉の上二枚障子上
のまきむす杉のまきむす杉の上を
- 一 南のはむこのまきむす杉のまきむす杉の上を
- 一 二枚障子障子のまきむす杉のまきむす杉の上を

まきむす杉のまきむす杉のまきむす杉のまきむす杉のまきむす杉

- 一 落し切りまきむす杉のまきむす杉の上を
- 一 石のまきむす杉のまきむす杉のまきむす杉の上を
- 一 堀のまきむす杉のまきむす杉のまきむす杉の上を
- 一 土のまきむす杉のまきむす杉のまきむす杉の上を
- 一 木のまきむす杉のまきむす杉のまきむす杉の上を
- 一 土のまきむす杉のまきむす杉のまきむす杉の上を

三分の二の幅を

一、ときふた開くさうに三人をすしあそび

意の先

一、南の意を指すも三人は鶴居内は三人

守りあはせりてこのねりて三人は守りあは

ゆりあはせりてこのねりて三人は守りあは

みの上の守りあはせりてこのねりて三人は

りり守りあはせりてこのねりて三人は

井の中を流るりてこのねりて三人は

二、中後を

東意を指すも二人守りあはせりてこのねり

二人守りあはせりてこのねりて三人は

内は

但し守りあはせりてこのねりて三人は

内は守りあはせりてこのねりて三人は

内は守りあはせりてこのねりて三人は

内は守りあはせりてこのねりて三人は

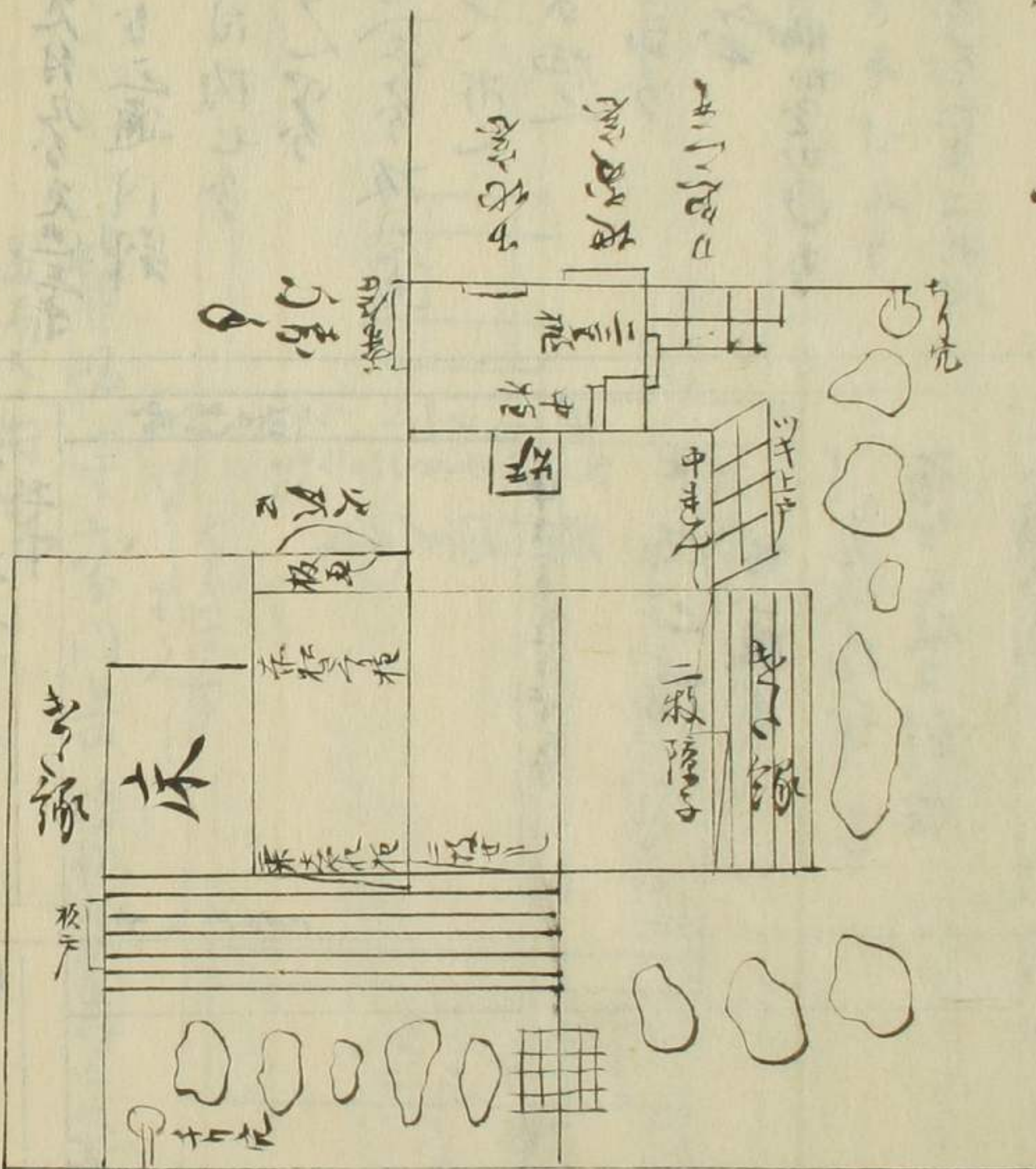
内は守りあはせりてこのねりて三人は

一 矢名子野原ははらこからおのの松屋
一 三子野原ははらこからおの松屋
一 守妻野原のちまきからおの松屋

一 鹿島野原ははらこからおの松屋
一 ぬきこらへおの松屋ははらこからおの松屋
一 子あら野原ははらこからおの松屋
一 えんじ野原の松屋ははらこからおの松屋
一 二人子野原ははらこからおの松屋
一 のまこらへおの松屋ははらこからおの松屋

一 横本三子野原ははらこからおの松屋
一 一寸丸野原ははらこからおの松屋
一 四柱野原ははらこからおの松屋
一 二子野原ははらこからおの松屋
一 一風野原ははらこからおの松屋
一 ちまき野原ははらこからおの松屋
一 七子野原ははらこからおの松屋
一 七子野原ははらこからおの松屋
一 七子野原ははらこからおの松屋

遠列公叔方屋の図



一 枱を置くはさきしんを木の根の傍に板を置く
 一 よは類のよき海用寺の木の形をよしとぬ
 一 ちをきくし一 把ぬたをぬきとぬ

一 床の間のまのよき天井の柱縁を七人二守とつる
 一 あこのまの四人幅を八半たぬ板の床家の面
 一 ちをぬきとぬ

一 床の間のまのよきすむらと長二守とつる
 一 床板を板の皮を本とつるまのよきあのみや
 一 ちをぬきとぬ板のまのよきあのまのよき板をぬき

戸ハ杉の板戸内ノのちいさき或るきく軒がくち
但る高き寺の園のよき一處井云の移寄屋と
ニ移居し居るよつよその長しある居居
男いあるよつよ

一 書目長き書目大なり中板造り人守り
分中板しめきき守り分幅三人守り
分中板の上へ守りやを名乗る意の上
二 守りしと守りしは守りしは守りし
海をきよめ守りしと守りしと守りし

の同ふなりし守りしと守りしと守りし
又たききと物程あるしりくはまを打る
一 中板の上より上へ守りしと守りし
内一守りしと守りしと守りしと守りし
ろと守りしと守りしと守りしと守りし
一 書目長き書目大なり中板造り人守り
守りしと守りしと守りしと守りし
らの上へ守りしと守りしと守りし
竹の板を九を隔すし守りしと守りし

甲三寸の深さに入長さを有るものなり

一 目下板の二寸三寸を幅とする等法より又

板三寸角から本から上の板の厚さ

板の厚さ寸法本から七寸より本角より

寸分せり

一 端揚の寸法を二寸三寸より寸法を二寸の板より

三寸の厚さの板を板の厚さの寸法より寸法を

一 五腰板の寸法あり

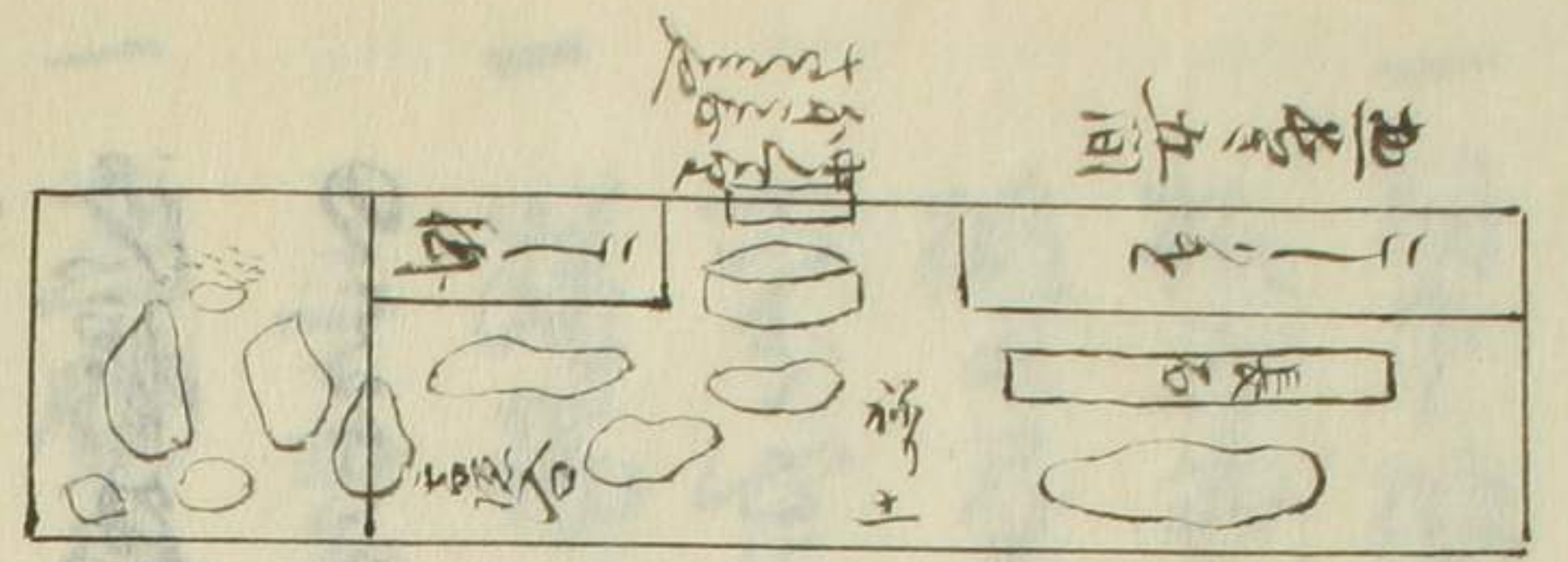
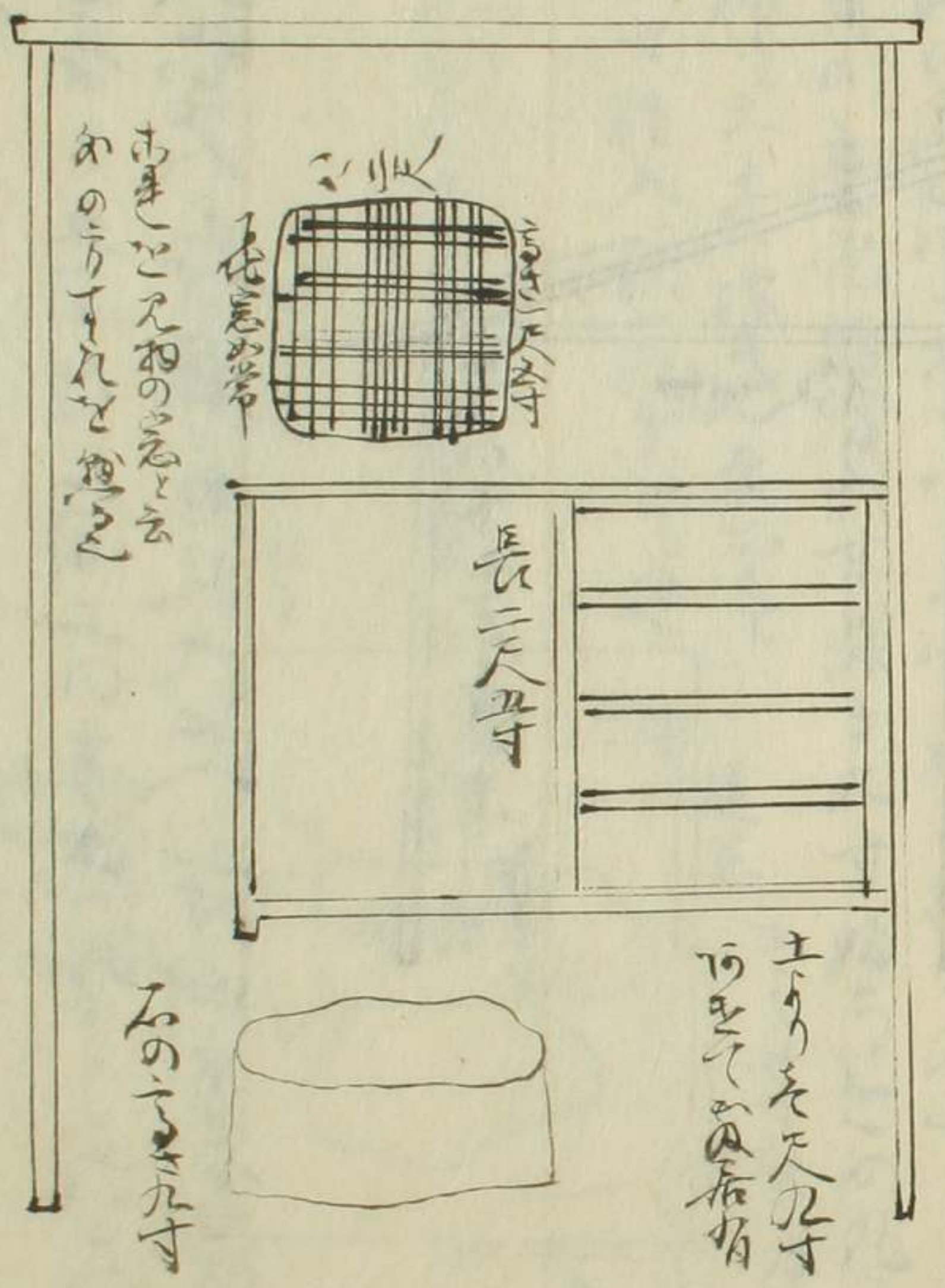
一 腰板の寸法を二寸幅より寸法を二寸の板より

寸法より寸法を二寸幅より寸法を二寸の板より

寸法より寸法を二寸幅より寸法を二寸の板より

の寸法より寸法を二寸幅より寸法を二寸の板より

中ぐりの図



腰窓の図

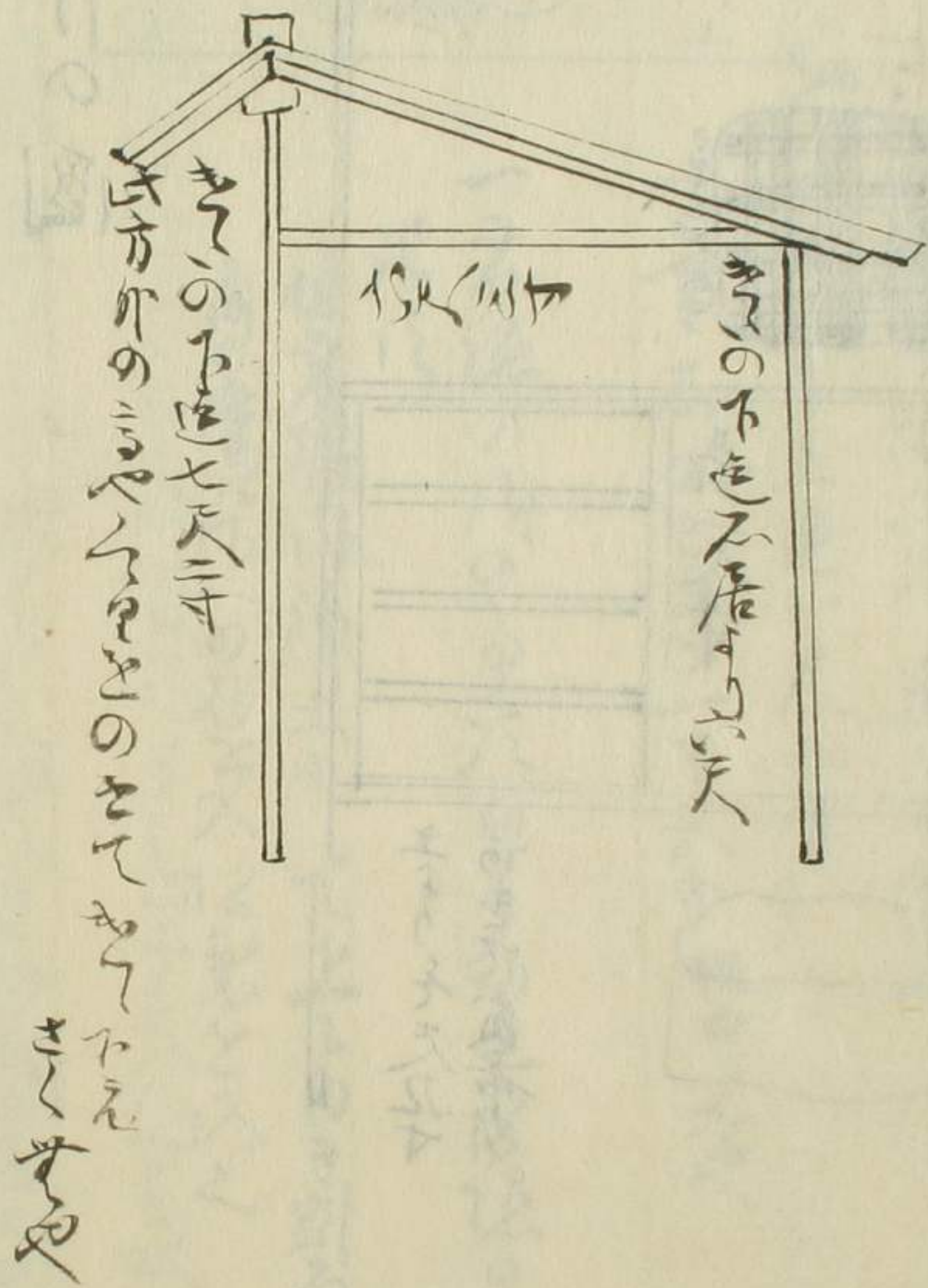
- 一 腰窓幅を尺八寸五分古減云の寸と
- 一 腰窓幅二尺 透列云の寸と
- 一 土より上連一尺八寸
- 一 土より下の寸を二寸五分 世中り云

一 腰窓の内の中六の寸あるは腰窓の内の中六の寸

但腰窓の内の中六の寸あるは腰窓の内の中六の寸
角の腰窓の内の中六の寸あるは腰窓の内の中六の寸

腰窓を祿の図

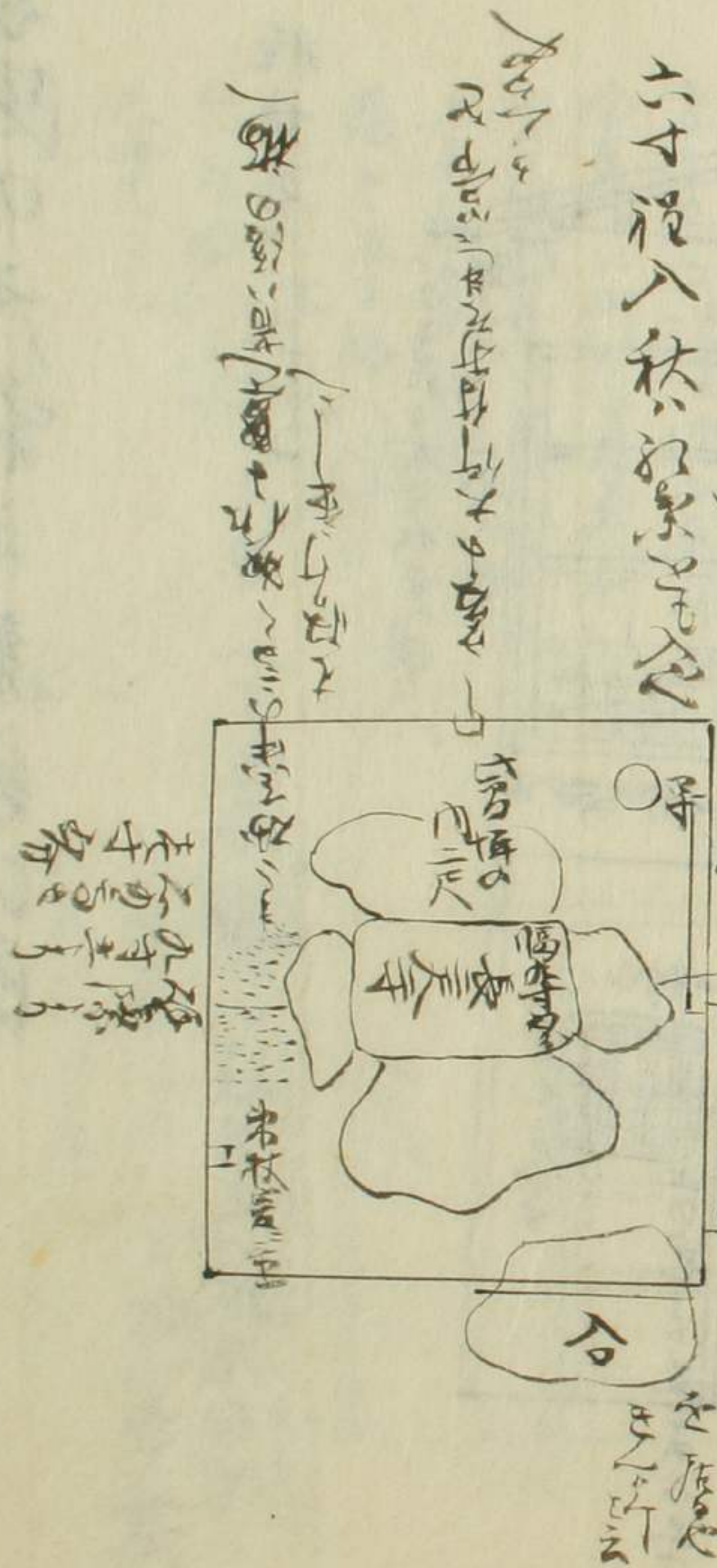
惣長さ五間門二間上の方中々り六尺二寸
又六尺二寸腰窓又六尺二寸四方窓後之



雪隠の月の図

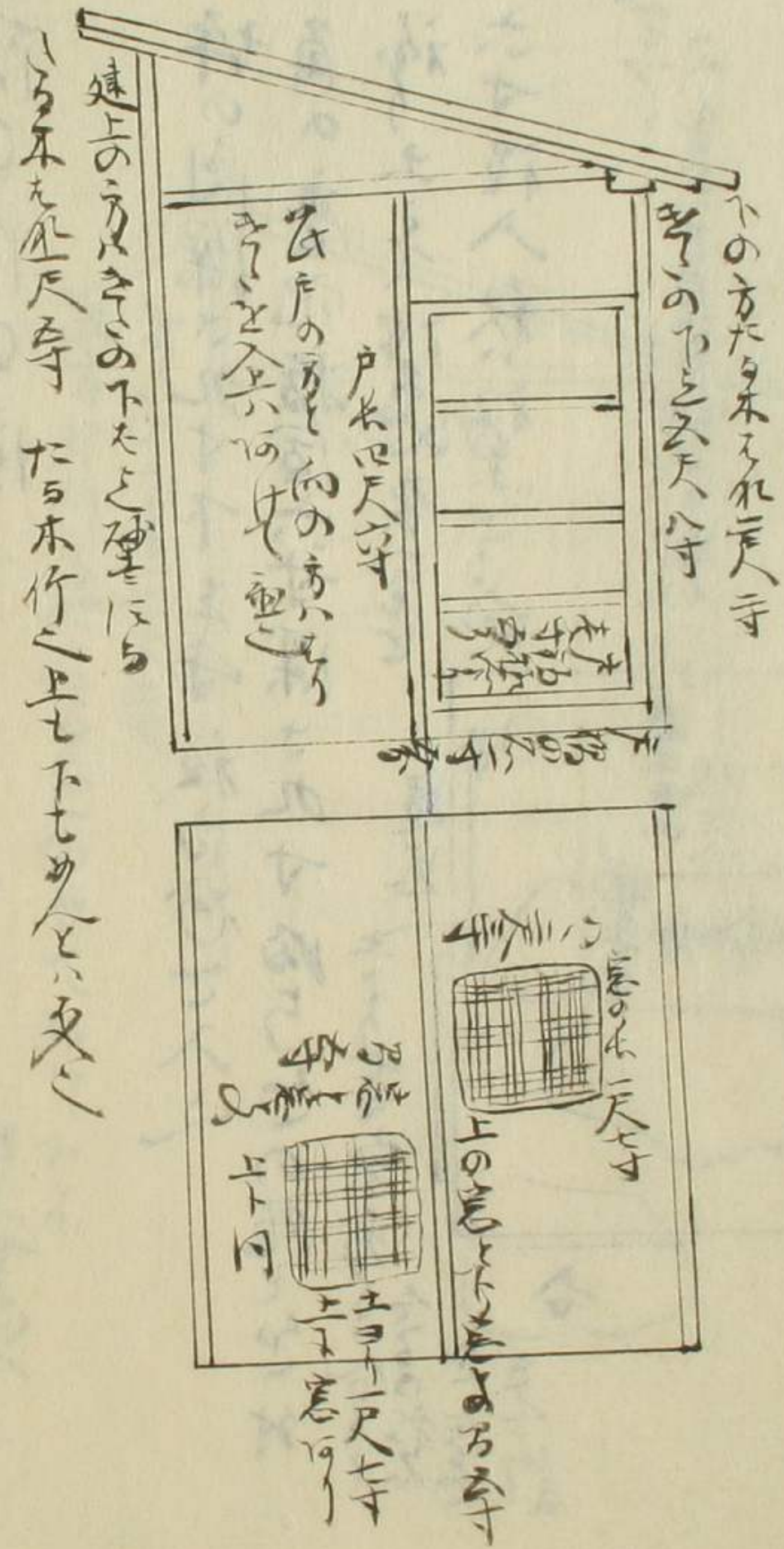
但ちれまき雪隠してハ八尺八寸四方

坪の内深さ九寸下を寸程白砂を入し
角の唐瓦指幅六寸深さ九寸ゆらこの丸を付
神り土を改まじまを
六寸程入秋の丸を

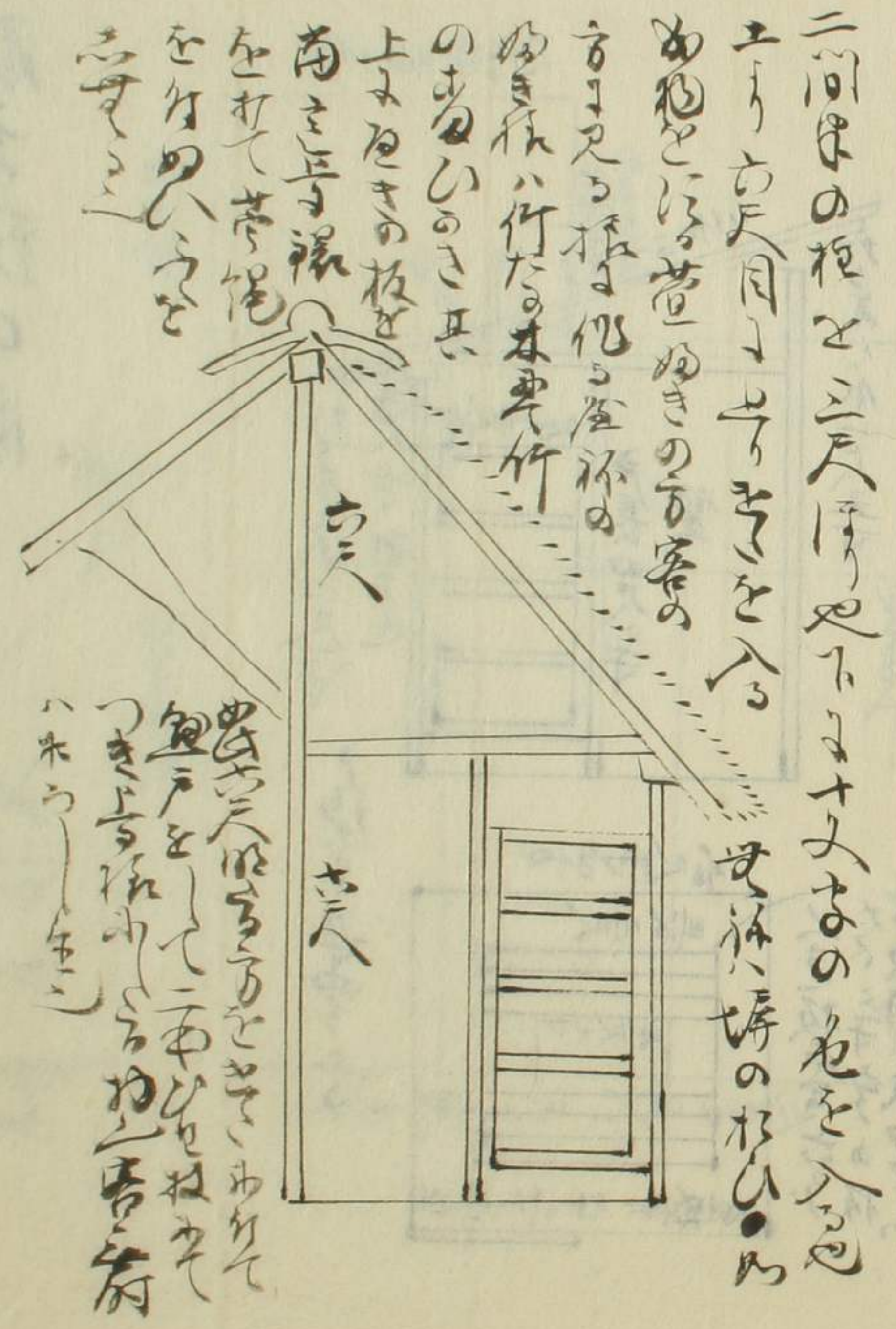


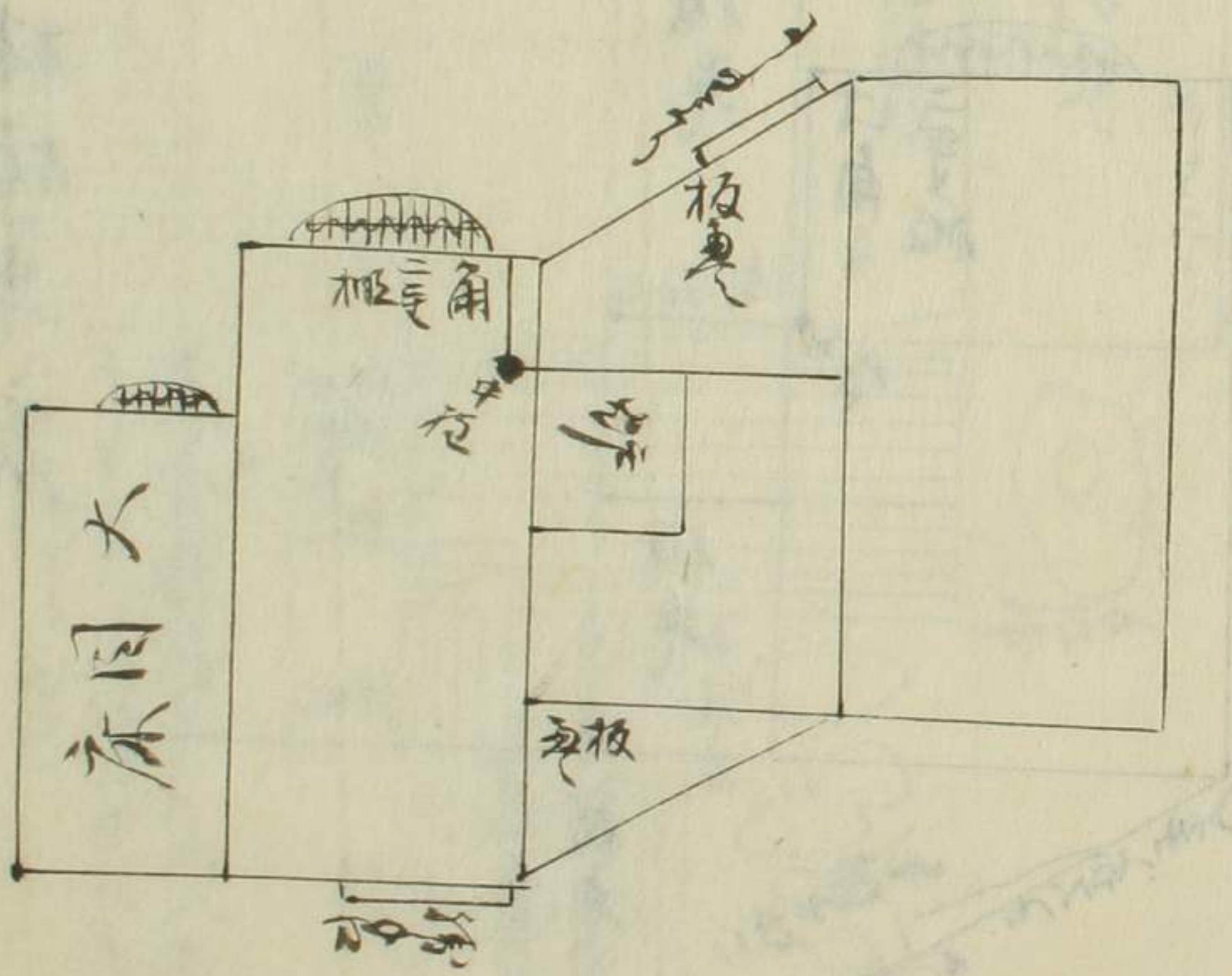
寄隠の戸前兼遠忌の図

柜の大き、二寸七八分三寸迄ぬ粟の皮付又ハ板瓦を

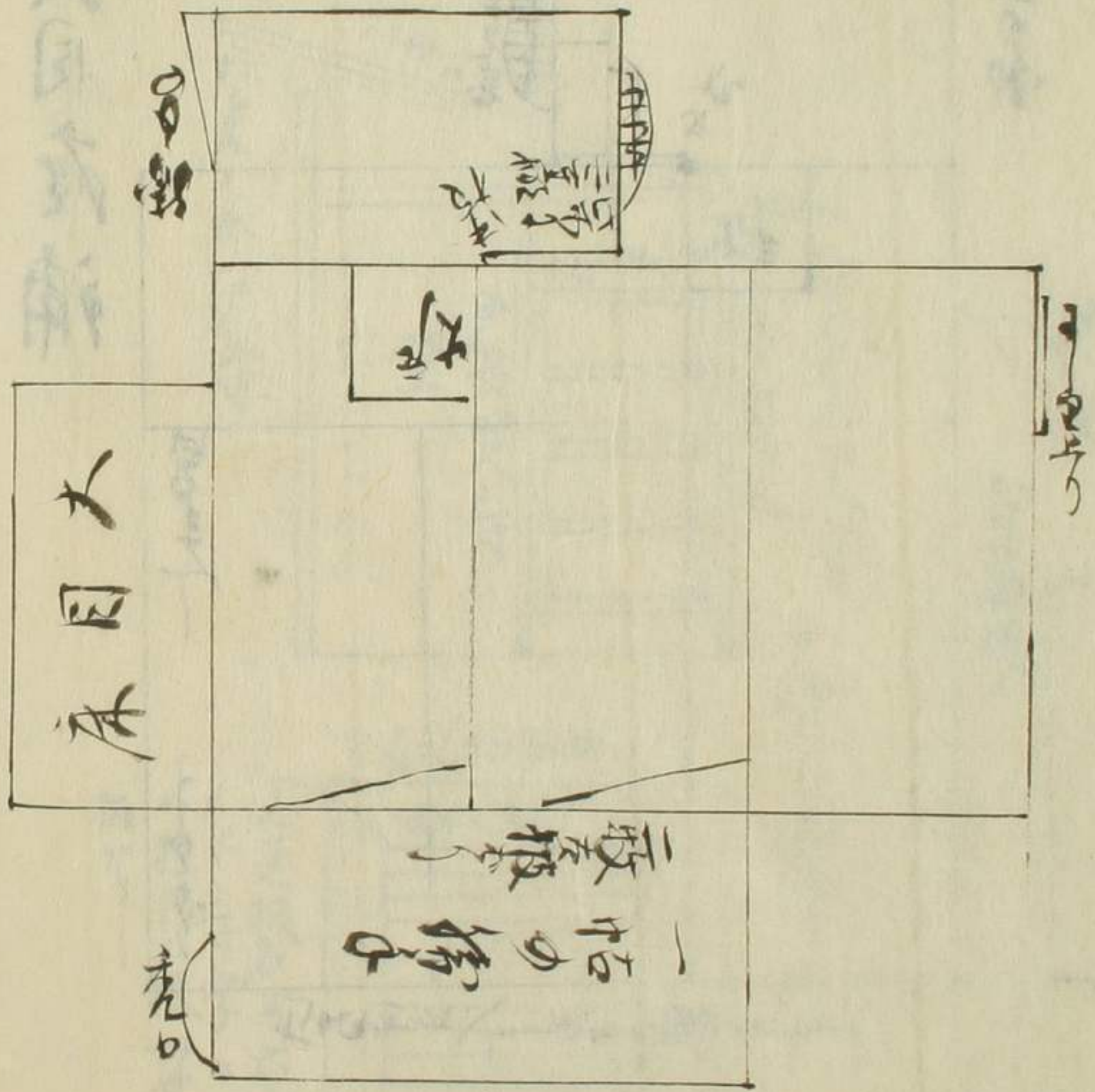


萱畑寄寄隠の図

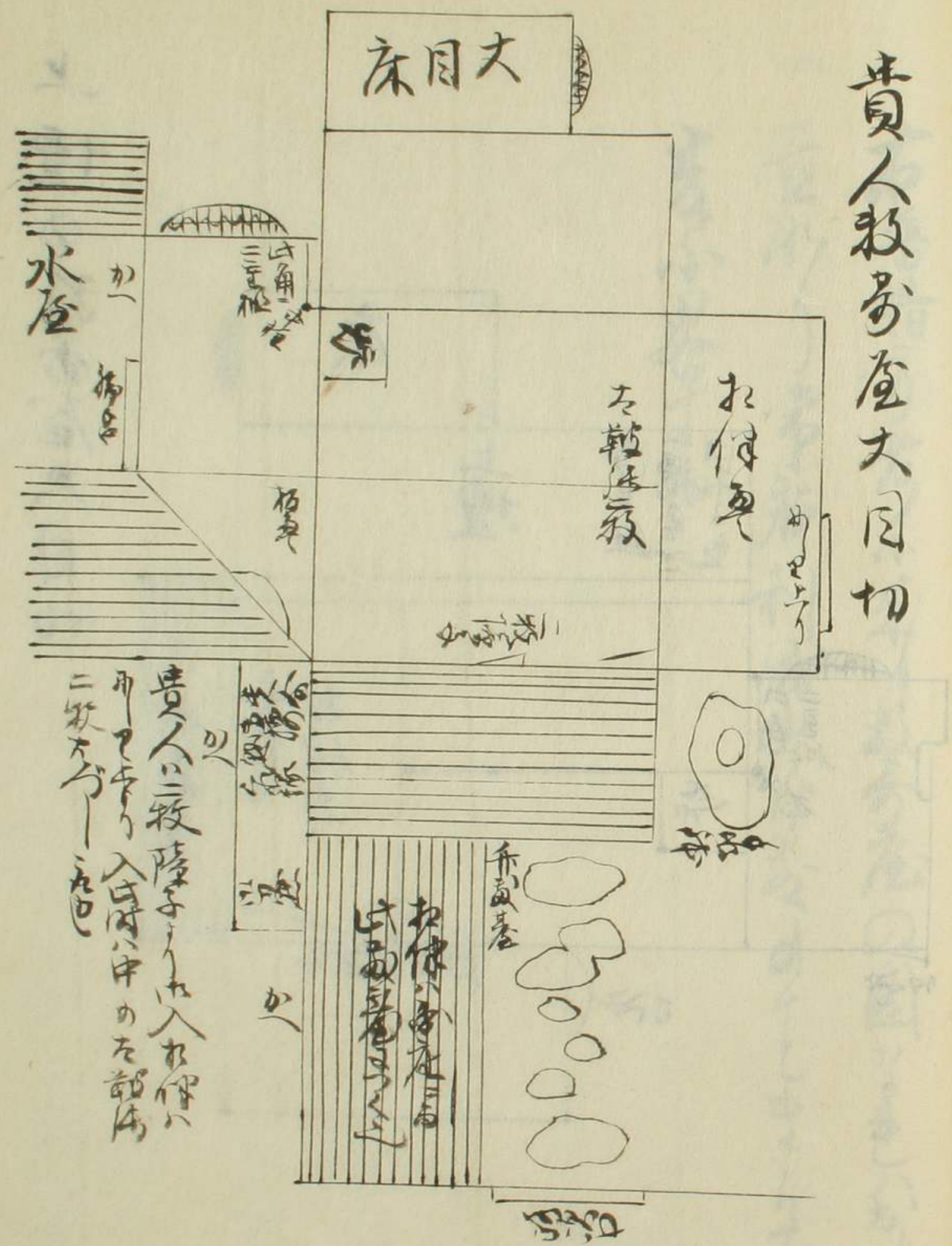




二階の二階の板敷

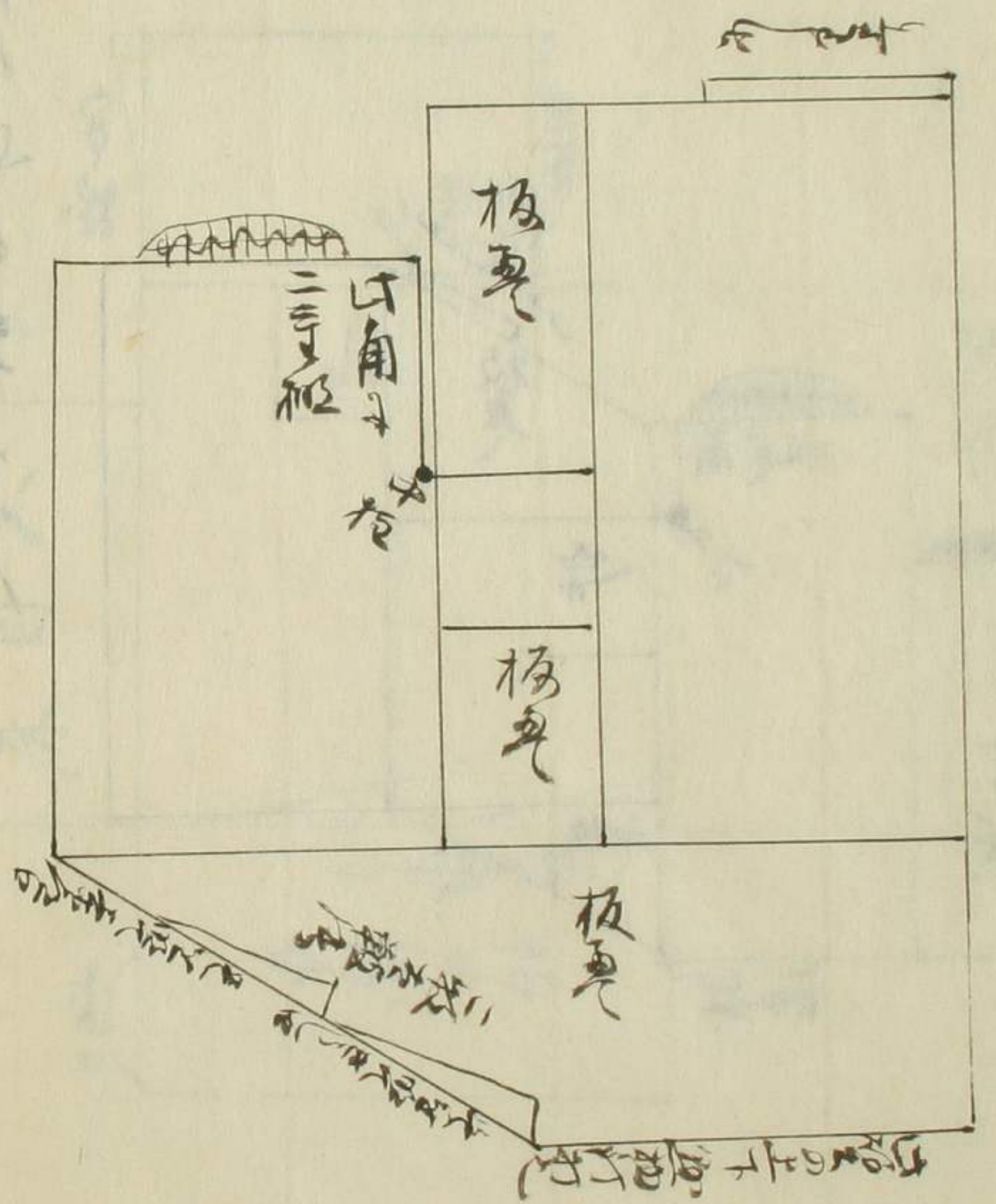


二階の二階の板敷



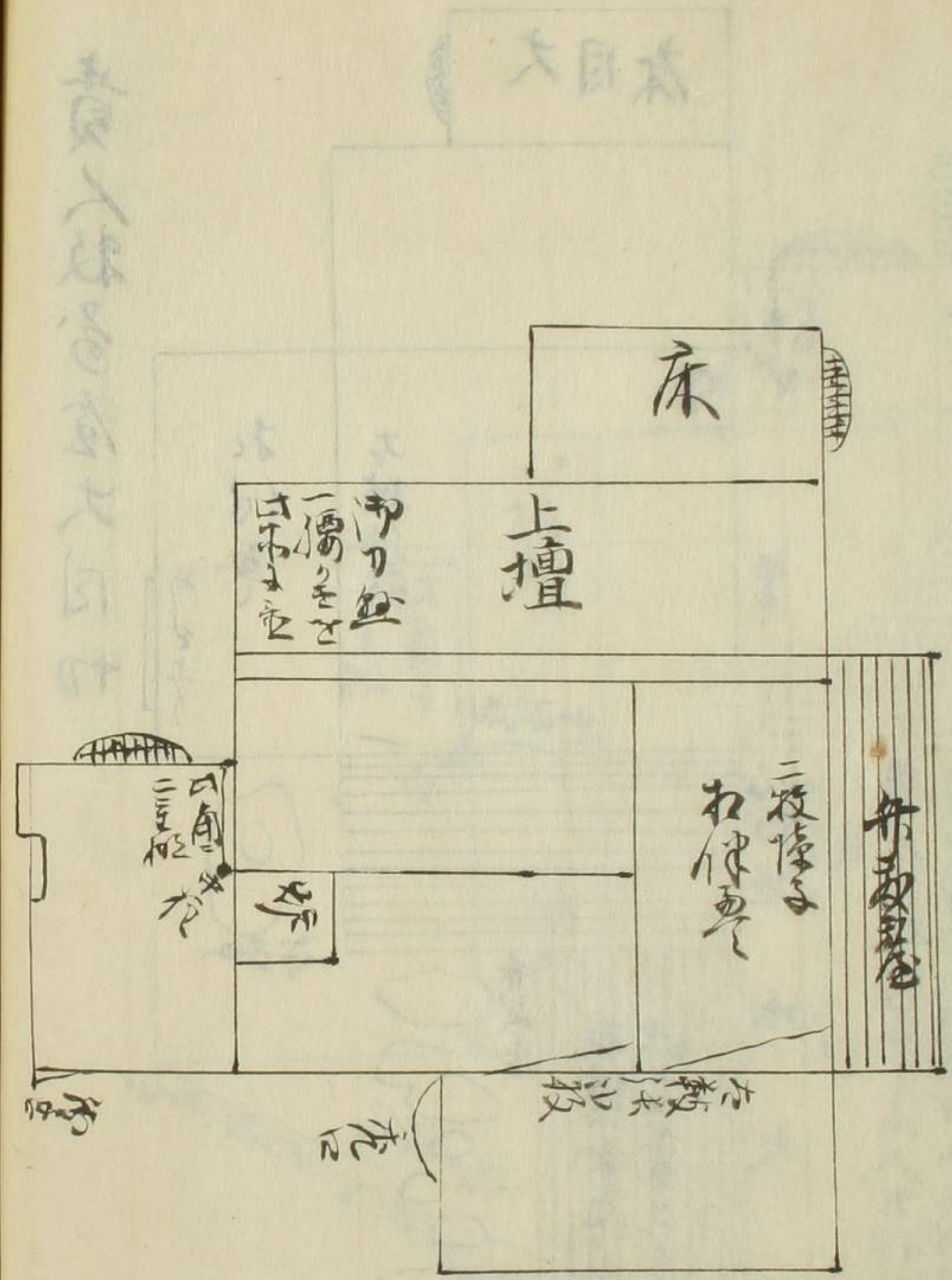
貴人敷居大目切

1150の幅の敷居



一帖大目の中板板身床

上壇の教場屋大目切



右普請方考小車教場屋の図りましが
 立所ノ常形利便小座をよのこしきりて
 安ふ異千一也

路次他の方

一 函次を伴ふ深山神野神と二通の信
 河川深山神を流るる下野神と千歳
 の石と深山神を石も大根りて大小を著
 てニホチ守りわらしりて其石自惚とニ守
 七かのもニホチと見たりしは河川神を石小
 形ゆしてニホチ地神と対しりて其石もニホ
 ちゆりし

但深山神を人の住とまきしる石角と云ひし

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word "Wanderer" and other illegible characters.

有る種のほきぬたきもまた切し野所
石をきくもふたせに種をたぬもよく
根ほきると浅き石とゆい通ふ道の
大に遠くあるも石のほきるとよく
右の野所流すも分て種をたぬも
りともたふりては石のほきるとよく
とす一としてぬえりて種をたぬも
たぬもたぬもたぬもたぬもたぬも
とす一としてぬえりて種をたぬも

供へ所の千家深山野のちぬえり
るもたぬもたぬもたぬもたぬも
東野所をぬ流すもたぬもたぬも
右の野所をぬ流すもたぬもたぬも
りともたふりては石のほきるとよく
右の野所をぬ流すもたぬもたぬも
右の野所をぬ流すもたぬもたぬも
右の野所をぬ流すもたぬもたぬも
右の野所をぬ流すもたぬもたぬも
右の野所をぬ流すもたぬもたぬも

なり

一 池を作らば先をさうし或は景をな
く甬田をかりふ市井とて高隠井たる
の神山まじりの物事一室と出たは待客客
隠の立根を移すに移しとて来りて
社とありをいふ

池を作すのありしを在坪地形とて
かきしりの池をかりの記あるはとて
池を作すのありしを在坪地形とて

一 待客客隠とて又かきしり
出りて待客客隠とて又かきしり
口置の池砂言隠又ハ井とて地蔵
かきしりまじりの池をかりの記あるは
ほ成つても来りて

一 池と池の先石を調ふは心なして
形多しハ三角なるものなりハ
多しハ形多しハ三角なるものなりハ
かきしり又ハ大石とてハ池とてハ

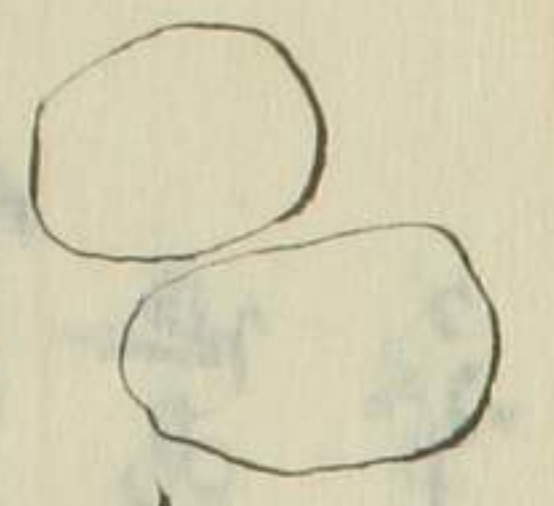
育の上よりおぼやかしむる人無きものなり
又心もまゝなるを思ふ事なくんば
ふまのりたるにこそ

一物と申かりたるをいふかきも若中
小名をいふ多くきひては名をいふ者なり
いふをいふにふくしむるは海に
一

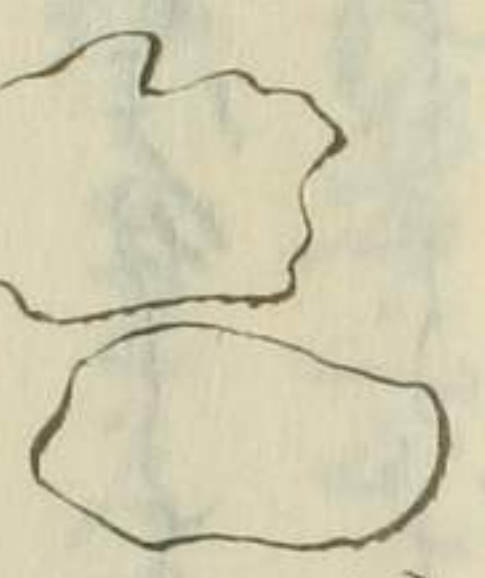
一帯の中よりいふとすきえよまきひる
あり名をいふまゝよまひて面をきく

はら

いふかきをいふ



少後おのりたるをいふ



いふ

いふかきをいふるをいふ
内よりいふ少後おのりたるをいふ
いふかきをいふるをいふ

いふかきをいふるをいふ
いふかきをいふるをいふ
いふかきをいふるをいふ
いふかきをいふるをいふ

何れも此の如くは三つに成るべし一は此の
度も亦あるを以て成る可き事也
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし

一役有り一才一材あるもの石

世は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし

あるもの如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし
一は此の如くは三つに成るべし

一才二刀並の石一名あり二匠有る石六段あり

しゆくぬおはぶるのれんゆくふらるる根し
はねのこまごまを月ころの神と神前を
のる平のむぎの枝よそものまひあき
の所也

又も水鏡の神前をのれんよふあかき
ぬきぬい見ふを置財を常の枝え柄と
少とくはしし神家の水鏡とせえまき
唐きしし神とはの候根をぬおけ
やあししあかき一系もれす一ををき

魚

一中央湯桶をよきいものたの右のりよあ
上あふして水鏡の方流の系なるし
よあし湯桶の系はぬしし根の枝のり
ふふふふふふふふふふふふふふふ
はじちのこまごまは水鏡しぬきし神家
のそしししししししししししししし
きそこの湯桶をよきいぬおけの所也
なほ

此書は先づ一冊射をなすべしと云ふ事あり
一冊は人の射をなす事なり
一冊は元来を中へし事なり
一冊は元来を中へし事なり

一 侍者元と勝を前付一 公はもとよりの
石ありし

但侍者斗へる後直をなす事なり
右侍者なき事なり
左侍者なき事なり
右侍者なき事なり
左侍者なき事なり

右入用の石を分りて

右入用の石を分りて
右入用の石を分りて
右入用の石を分りて

一 日海大もも舟ありとも
の石と云ふ事なり
又この石と云ふ事なり

此は元来の石なり
右侍者なき事なり
左侍者なき事なり
右侍者なき事なり
左侍者なき事なり

然則川又ふり又ふりせうとて入る
らひ津あきのふねえん色——の月あはせ
波——或ははきえんうはきはきをねね
大小の角接ねねぬのふねをる石津戸
さしえんも定まらりしり直海明えん

い肝男ぬ——

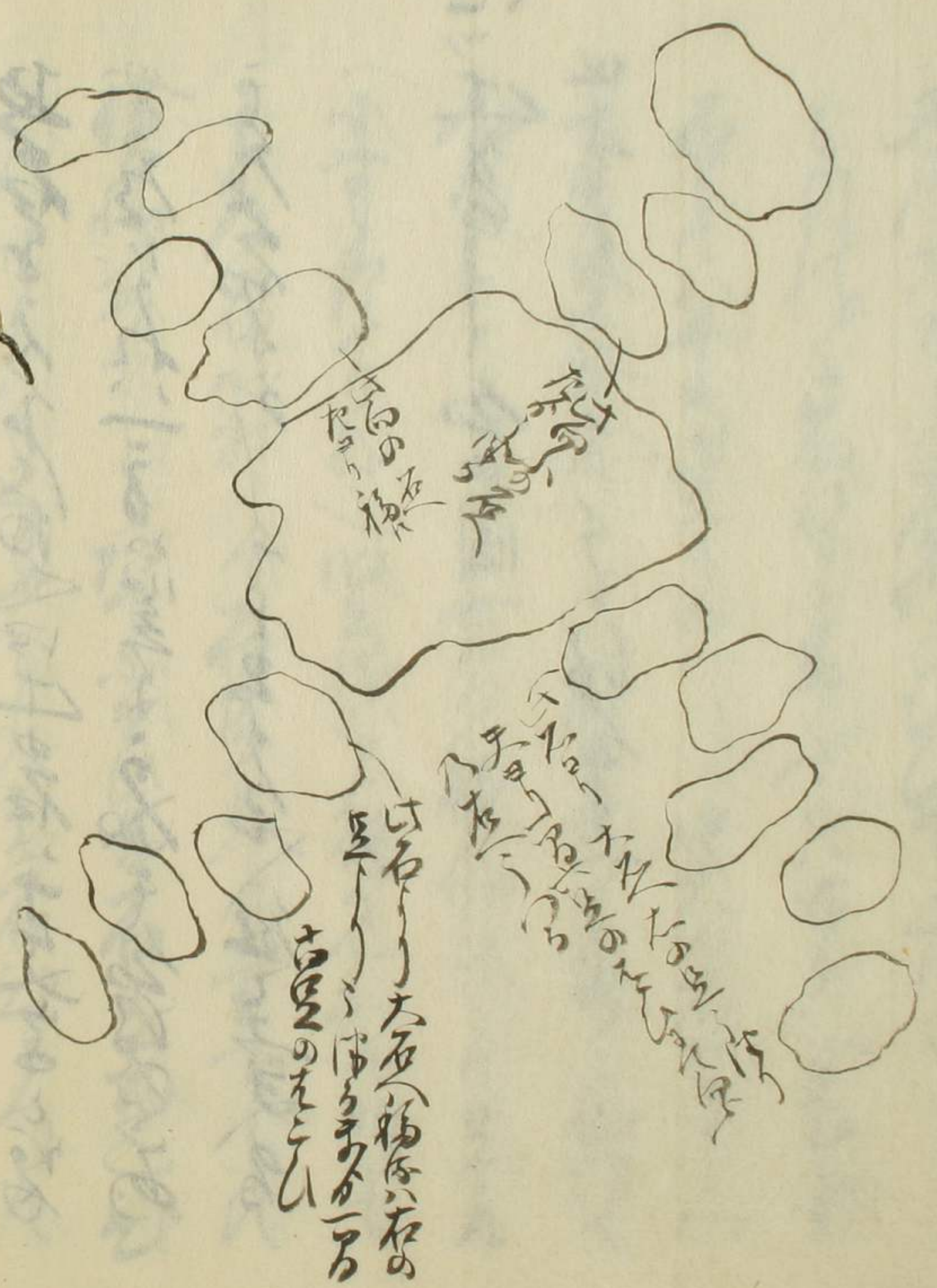
右の石と瀬のねぬ大石のきし玉をんふばり
瀬の中石中石の二石のきし玉をんふばり
かきそてねねとをふもきし玉をん

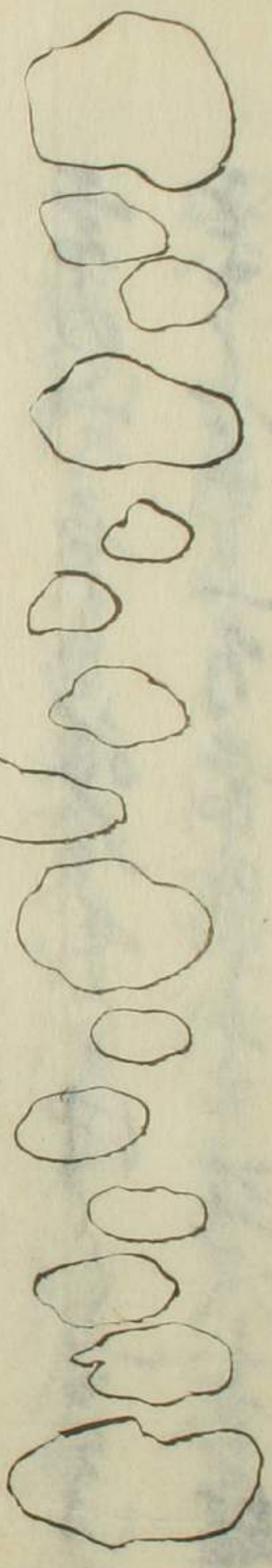
但ふ石の瀬の二石のきし玉をんふばり
能くもきし玉をんふばり
た——かきそてねねとをふもきし玉をん
右——石の瀬の二石のきし玉をん
一ふばり——のきし玉をんふばり
能くもきし玉をんふばり
かきそてねねとをふもきし玉をん
右——石の瀬の二石のきし玉をん
一ふばり——のきし玉をんふばり
能くもきし玉をんふばり
かきそてねねとをふもきし玉をん

又唐名あり大座那のこえこらちり
と因はるる名はさきさきとありしは
右と平名とさきさきと中たのるは
千鳥とさきさきと右のありと能く
をとさきさきと一常の標本と
いすはかりぬるは標本と能く
主なる名は新しと右はありと
標本ありと一はありと右はあり
とありと一はありと右はあり

心はかりし公の國
世をさきさきとさきさきと

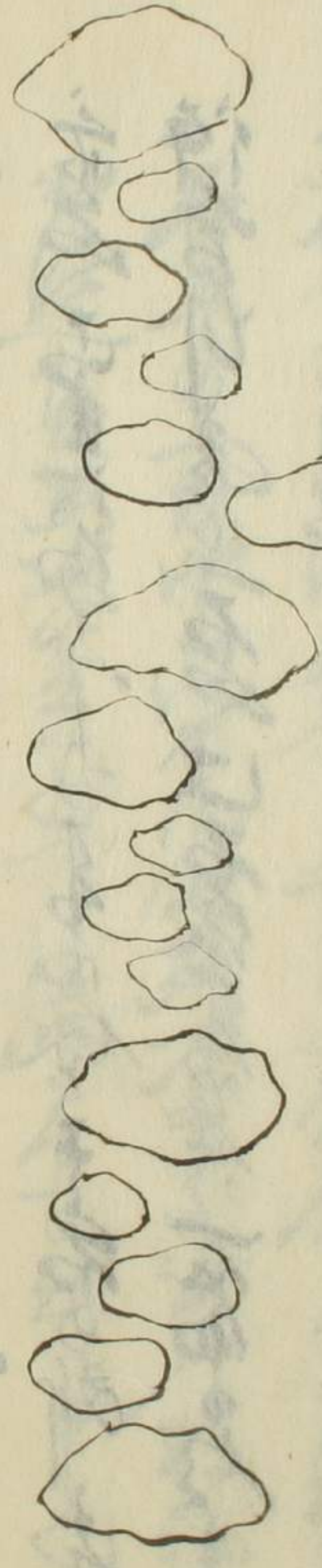
右に述べた如くふまはれたる一物をもたし物
 底前より入るる余りぬ一辺の大小を菱
 形の意味をなす字をり一形を大菱
 横の長より字をの之を大横の長に
 長き石は上外外きふ一又三寸寸
 ありしとるは
 一表路入の如く上平ふ一形を大菱の
 どの字をりぬ一外の字をりぬ
 此形並に上平板は或は大小角の如く





此邊の石

此邊の石



いめはとこふめはあふしええりいぬしー

一路次ふく石の古道待合より腰道道へは京
或る段より又ふく水神ぬる左

但京都より少用なりと成ゆ共ふゆら辰
下宿より後より妙言候よりも洞も色に
や昔をたまたまと人遠く共座宿より過ぎ
わくくといふわよ老を宿にせしむるたありて
うし中使下より路次よりけりきこ人の若き
よ小使を調下初んあ一りる物にたま河
しくんをのりか若き宿より若き宿者を集

あまそんのかれらるる心なまのふかき

但し遠くを石を流すのふかき岩石のまじり

ぬきぬきとあつらふ腰を巻く石を流す

まじりぬきぬきとあつらふ腰を巻く

一 遊水石を流すのふかき岩石を流す

まじりぬきぬきとあつらふ腰を巻く

但し遠くを石を流すのふかき岩石のまじり

ぬきぬきとあつらふ腰を巻く石を流す

まじりぬきぬきとあつらふ腰を巻く

あまそんのかれらるる心なまのふかき

但し遠くを石を流すのふかき岩石のまじり

ぬきぬきとあつらふ腰を巻く石を流す

まじりぬきぬきとあつらふ腰を巻く

あまそんのかれらるる心なまのふかき

但し遠くを石を流すのふかき岩石のまじり

ぬきぬきとあつらふ腰を巻く石を流す

まじりぬきぬきとあつらふ腰を巻く

あまそんのかれらるる心なまのふかき

あまのついでに

一 門の政次外政次本弟のふさの孫政次飛の
ふさのふさの孫政次書化之の孫政次
花大政次ふさの孫政次之孫政次
有のふさの孫政次概の孫政次斗の
事を知りて政次の之孫政次仁の孫政次
さの孫政次之孫政次之孫政次山水の孫
政次田富の孫政次野に浦城破ゆ政次ふ
おの孫政次の孫政次之孫政次ふおの孫政次

ついでにの孫政次と云ふは初孫の孫政次
一 政次の孫政次之孫政次之孫政次池田流
政次の孫政次の孫政次の孫政次の孫政次
所安の孫政次之孫政次の孫政次の孫政次
之孫政次の孫政次の孫政次の孫政次
政次の孫政次の孫政次の孫政次の孫政次
の孫政次の孫政次の孫政次の孫政次
一 石橋の孫政次之孫政次の孫政次の孫政次
政次の孫政次の孫政次の孫政次の孫政次

仰せらるる一才二六也林内は高野の風宗
と仰せ也まよひん一才二六もあつた感と
こゝろの邊より石地を電の大小こゝろ感
神祇の地を電の或は野地を電四角の
利体形線形又いふ地を電是は板橋のすば
くつゝの地を電 流地を電未ださふきしんを
いふ古き流地を電とあやむべきよし
又と仰せぬ一才二六の形とあはれ
の流地を電山形及び石地の中より 神社の流地を電
大形の古き

こゝろの形とあはれの用高野道一とせり
いふべきは地を電と云院なりなるは顔面を
この形とあはれ
石地を電の大小の日月の月と云
立へ一才二六の形とあはれ
の形とあはれ東の氣味と云一才二六の形
この形とあはれ 利体と云一才二六の形
流地を電の形とあはれ神祇と云一才二六の形
かへ一才二六の形とあはれ利体形線形

かみかちのまじり

一 神前のはらりと前にはなごころ 書院縁

しきふもれ神も桶石をわりとくしき
石をまじり不入神に向して縁をくえ水と
流流を石まきり 一 室湯桶石を初春に
ぬく 一 神の神をふり 一 石三河に
のりか水注のふきり 一 又書院のふり
神は水上石まきり 一 石まきり 一 石まきり
と揚條 一 のりまきり 一 石

又神のまきり 一 室湯桶石を初春に
ぬく 一 神の神をふり 一 石三河に
のりか水注のふきり 一 又書院のふり
神は水上石まきり 一 石まきり 一 石まきり
と揚條 一 のりまきり 一 石

一 石まきり 一 室湯桶石を初春に
ぬく 一 神の神をふり 一 石三河に
のりか水注のふきり 一 又書院のふり
神は水上石まきり 一 石まきり 一 石まきり
と揚條 一 のりまきり 一 石

一 路次木と植ふる事申のせを以て此の用
まゝとてその名の如く植むる一ツは
りり角角く有る事と云はれ角を以て
一ツは植む事ゆゑに角角と云ふ事
ありてあまももを以ていふ事ありて外に
家より入る事と植む事と云はれ
たす事自らても用と事なる事と植む事
一 神よりなる事と云ふ事と云ふ事は神の
事なる事と云ふ事と云ふ事は神の

一 石籠籠と大樹と云ふ事と云ふ事は
籠籠と云ふ事と云ふ事は籠籠と云ふ事
ありてあまももを以ていふ事ありて外に
家より入る事と植む事と云はれ
たす事自らても用と事なる事と植む事
一 神よりなる事と云ふ事と云ふ事は神の
事なる事と云ふ事と云ふ事は神の

そ舟木を極らふは、
の極る高き、
りも考ひ、
換は、
て極らぬ、
未とる、
て極らぬ、
成る、

一、
けき、
初、
て、
ち、
初、
一、
一、

りしものごとく植へし中の木はよく育ちて
居りしに及ばぬれ故にせしむるに能
ぬ。この木はくさくさし又松の木の如く
瑞澤をせしむるに及ばぬ。成程、少くは
くさくさし。この木はくさくさし、松
の木の如く育ちぬ。ふもこの木の如く
くさくさし。この木はくさくさし。

松の木の如く育ちぬ。ふもこの木の如く
くさくさし。この木はくさくさし。
みよしの木

檜の木の如く育ちぬ。ふもこの木の如く
くさくさし。この木はくさくさし。
大樹大木はくさくさし

但杉の木の如く育ちぬ。ふもこの木の如く
くさくさし。この木はくさくさし。
次はくさくさし。この木はくさくさし。
くさくさし。

松の木の如く育ちぬ。ふもこの木の如く
くさくさし。この木はくさくさし。
一本の木の如く育ちぬ。ふもこの木の如く
くさくさし。この木はくさくさし。
大樹大木はくさくさし。この木はくさくさし。

雲の浦をきよみゆりてはまの草が 紅い光
宜物 一 きのあまのふりか

袖の面をきき物もきき共我らういしくはなれや
せも物に初に思ひたうともほろろなるものた
おの清のこころは母なる物なれ共た極の
しる苦みは切あつたまの多くは
かろ花は能らうつきのこころ
秋はまぶ村 一 玉舟何村もさるるま
おのこを極少 一 ても枝さふらぬらぬ

能らうゆき道 一 木さうん若木さう能を枝
もいへん極ては極りや

楓秋紅葉はら楓もは路は極る
せ月く極多き物 一 若木のこころは路は
よか合おもひ大庭くはなはあまののこ
もこのあま極るまね共文も紅葉あまも
しらはは極る 一 若毛 一 若大極る
は初に極る
ゆけり葉も木は名堂は極る

だうく少古風成程なれ共空物之をも大
樹とて一少木に名を

九年母少ねもはしく月一たしくと
ふはもこみ

本摩の少はしく少樹とて本少の能なれとも
少多の少る物と少唐のきと少木も少樹と
少格別せを少樹とて少名を少の也

少少少少少少少少少少少少少少少少
少少少少少少少少少少少少少少少少
少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少少

唐のきと少の物と少まきと少樹と

少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少少少少少少少少少少少少少

かしのふし枝枯まじらひ

橋のふし多しあり葉も枯るる

生花も折るるをせむ路次折るる

大樹も一休入道寺の宮の庭に

の他も多しこの橋一色とて

本はすの木の宮の庭に

まひては

屋ぶしをまひる宜物とて

かしの枝もねづきの

伊吹の葉の面影もす大樹大

路次も初め大樹大路次も

三五樹木形も橋極の枝を

銀杏のいててはまきも

葉も一休入道の宮の庭に

院も六列て宮の庭に

藤苗も多し花も

甘き路次も折るる

大樹も

柳よんきそて茂るる也

石の舟若まらるる多しとて或も或も
或は花少く指合多しとて或の極本
或は花多しとて好て極く又まとのり
合ふも多しとて大なる極本は何より
まこのまじりたるも極くとて或は極く
は極く多しとて大なる極本は何より
くも多しとて好て極く又まとのり
梅もこのりたるも或は或もこのり

なれども多しとて好て極く又まとのり
或の亦せんとて好て極く又まとのり
の他方の或は或もこのり
舟は舟も多しとて好て極く又まとのり
舟も多しとて好て極く又まとのり
多しとて好て極く又まとのり
舟も多しとて好て極く又まとのり

又舟も多しとて好て極く又まとのり
舟も多しとて好て極く又まとのり

かゝる或うをま或いん人死或い屋掃掃
或い袖或い袖の或い或い

又白牛の牛碑は極く極く極く極く極く極く

十の或牛碑といふ或牛の或牛の或牛の

ては或牛の或牛の或牛の或牛の或牛の

或牛の或牛の或牛の或牛の或牛の

或牛の或牛の或牛の或牛の或牛の

或牛の或牛の或牛の或牛の或牛の

或牛の或牛の或牛の或牛の或牛の

牛の何よも紋と云ふかきききききききき
之類紋目地と出たりたりたりたりたり
るは母の用如しりれ若はりりりりりりり
若入用ありりりりりりりりりりりりり

又曰松夫野竹の或牛の或牛の或牛の
の湯の以、牛の或牛の或牛の或牛の
竹の枯家或牛の或牛の或牛の或牛の
夫野竹の外竹の或牛の或牛の或牛の
や或牛の或牛の或牛の或牛の或牛の

杉竹の甲冑松の毛織成を以て其神符の又其夫人
聖行の之を以て入るに可也

世間松もも少松もも其松も成成不
成成を以ていふ又其神符も湯煮も成
ほりまはしき成成を以ていふ少松も成
もき成成を以ていふ其神符も湯煮も成
正しき成成を以ていふ其神符も湯煮も成
又も成成を以ていふ其神符も湯煮も成
うも成成を以ていふ其神符も湯煮も成

又廣くいふ松の神符も湯煮も成
下の本の成成を以ていふ其神符も湯煮も成

一 本木の類

かき名く本木の類は其神符の湯煮も成
用く一向大庭小葉園り其神符の格列
おて葉の湯の成成を以ていふ其神符も湯煮も成

湯煮も成成を以ていふ其神符も湯煮も成
其神符も成成を以ていふ其神符も湯煮も成

ちいさな木の葉の影のさすところの草花
せうりつを山溪のうらぶる花
さぶ橋のまもりもあつた山溪のうらぶる古風
ぬれを雨のさすところの草花のまもり
ら—まもり—のまもり—
萩の草花のまもり—山溪の風さす草花
西のまもり—

但しと聞けり草花のまもり—山溪の風さす草花
西のまもり—

山溪のまもり—山溪の風さす草花
右の草花のまもり—山溪の風さす草花

一 野村とる所の路次へのまもり—山溪の風さす草花
のまもり—山溪の風さす草花
山溪のまもり—山溪の風さす草花
山溪のまもり—山溪の風さす草花
山溪のまもり—山溪の風さす草花
山溪のまもり—山溪の風さす草花
山溪のまもり—山溪の風さす草花
山溪のまもり—山溪の風さす草花

水菱蒲は枝梗枯着らぬのよしなり
也水草の類は何れも心細く之のよし
川柳やし極つても心細く之のよし
明之より行あるよし

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word "Kamakura" and other illegible characters.

おへ石をよむは炭と云ふよし
花をよむはよし
南をよむはよし
魚をよむはよし

但希のよし石をよむはよし
心細く之のよし
魚をよむはよし
石をよむはよし
但希のよし

中時和しを合てはるを

他初しと細き板より成りてよりと成りし

かきいせしはきてももる昔(瀬)とよびは

ハ是(和)初しを合て

とまゝに石とよび

他石とよびしは(和)初しはらにた

下の(和)初しはらにた(和)初しはらにた

な(和)初しはらにた(和)初しはらにた

は(和)初しはらにた(和)初しはらにた

とまゝにして(和)初しはらにた

低(和)初しはらにた(和)初しはらにた

す(和)初しはらにた(和)初しはらにた

ま(和)初しはらにた(和)初しはらにた

を(和)初しはらにた(和)初しはらにた

ハ(和)初しはらにた(和)初しはらにた

る(和)初しはらにた(和)初しはらにた

是(和)初しはらにた(和)初しはらにた

は(和)初しはらにた(和)初しはらにた

の月をさしおきてははるあけぬとて名をさるる
はるあけぬとて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる

とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる
とて名をさるる

一 大庭の坊の坊名をよみて後月を經て地味をよみて
せきくぬくをよみてはるあけぬとて名をさるる
坊の力をよみてはるあけぬとて名をさるる
石をさるるをよみてはるあけぬとて名をさるる
坊名をよみてはるあけぬとて名をさるる
も重りをはるあけぬとて名をさるる
がきくぬくをよみてはるあけぬとて名をさるる
の坊名をよみてはるあけぬとて名をさるる
和ひよるの坊名をよみてはるあけぬとて名をさるる

一 大泉水のときわを能波日用ひるのときわの
わくははらるる人の名を能波日用ひるのときわの
そのときわのときわのときわのときわのときわの
ゆききりうわく能波日用ひるのときわのときわの
但泉水のときわを言つる初より泉と入る
石灰のときわを言つる二三日経て能波日
と登るのときわを言つる三三日経て能波日
今もは能波日用ひるのときわのときわのときわの
まを能波日用ひるのときわのときわのときわの

一 今もは能波日用ひるのときわのときわのときわの
ゆききりうわく能波日用ひるのときわのときわの
但泉水のときわを言つる初より泉と入る
石灰のときわを言つる二三日経て能波日
と登るのときわを言つる三三日経て能波日
今もは能波日用ひるのときわのときわのときわの
まを能波日用ひるのときわのときわのときわの

各泉水のときわと能波日用ひるのときわのときわの

一 枝の白皮の樹の皮を剥ぎ、その皮を細く切ると、
頤子の使利の皮を剥ぎ、その皮を細く切ると、
麩まぶるの皮

一本木の根は二月に植る。—— 濃氣を培ふ。——
り、夏の花の本の花を今根に人若くを入
植。—— 折る。川草とせ。—— 能く育て。——
く。—— 別唐造の二つ松を植。—— 育つ。——
共。—— 今々の角造の二つ松を植。—— 育つ。——
一 流木一本。—— 芽をばら。—— 育つ。—— 育つ。——

肉運。—— 人参。—— 右三原粉。—— 水。——
と。—— 接植の皮。—— 同。—— ぬま。—— 接合。——
又。—— 芽。—— 切。—— ぬ。—— 根。—— 育。——
一 松若を植。—— 花。—— の。—— 皮。—— の。—— 皮。—— 能。——
な。—— 和。—— き。—— 重。—— 上。—— 松。—— 若。—— を。—— 育。—— 能。——
な。—— 育。—— 上。—— 芽。—— 芽。—— 芽。—— 芽。—— 芽。——
叶。—— の。—— 皮。—— の。—— 皮。—— の。—— 皮。—— の。—— 皮。——
一 用。—— 皮。—— を。—— 育。—— 何。—— の。—— 葉。—— を。—— 木。—— の。——
か。—— 育。—— 上。—— 芽。—— 芽。—— 芽。—— 芽。—— 芽。——

一 草の落る枯の枝のりを春の實

一 結をさるるかゝりて流るる水

一 實を結いさるるもさぬ枝の結なる也

一 市中の路次はききとて常は持たぬ以て結す

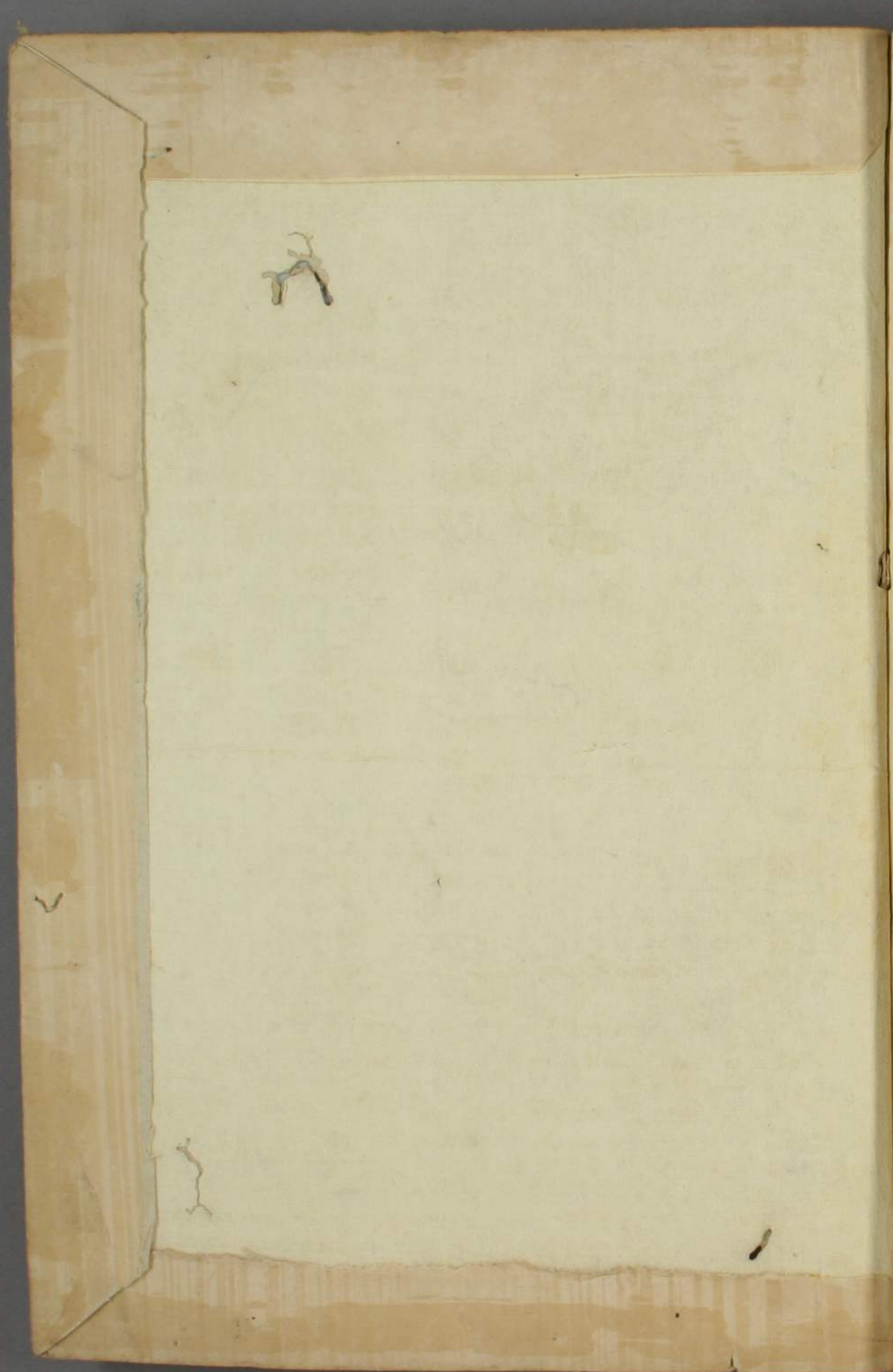
一 るし夜は夜時なりある下なるもさるるもさるる下

かきしとて不直物也

一 結をさるるもさぬ枝の結なる也

一 書

六



Handwritten text in vertical columns, written in a cursive style. The text is faint and difficult to read, but appears to be organized into several columns. There are some small, dark marks scattered across the page, possibly ink splatters or damage to the paper. The text is written in a dark ink, and the overall appearance is that of an old, handwritten manuscript or journal entry.

Handwritten text at the bottom right corner, possibly a signature or a date, written in a cursive style.

